はじめに

本講義は日本の大学受験における最難関「東京大学」を志望する受験生のためのものです。ですから、講義内容も日本で最高峰のものを用意しました。当然、内容も問題も難しいものになっています。しかし、一切妥協することなく最難関大学に合格する力をつけられるものになったと自負しています。ぜひこの講義を受けて、最高の学力を養成し、最難関大学に合格してください。

本講義の現代文の考え方

本講義は文章を従来の「意味論」だけでなく「統語論」の側面からも解説していきます。もちろん文章には「意味」があります。しかし、「意味」というのは読者の側に生成される主観的なものでもあります。ですから、「意味」ばかりを追求していくと、「読者によって意味が異なる」ということが起こり得るのです。

一方、大学入試の問題はたとえ最高峰の記述問題であろうとも、「読者によって解答が異なる」ということはありません。そこには客観的に正しい答えがあって、その答えや答えに至るプロセスがいかなるものかによって点数がつけられます。であれば、言語の客観性である「統語論」的側面を無視することはできません。言語の「統語論」的側面とは以下の三つです。

①　**文法**
②　**構文**
③　**論理**

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

たとえば、①文法ですが、筆者によって副助詞の「も」の使い方が異なるということはあり得ません。また、読者によって副助詞の「も」の機能が異なって受け取られるということもあり得ません。副助詞の「も」は、たとえどんな筆者であろうと、どんな読者であろうと、客観的に機能します。

また、②構文ですが、本講義では「主語―述語」の関係や、「修飾語―被修飾語」の関係や、「接続語―被接続語」の関係からなる文構造のことを構文と呼びます。この構文に関しても、文法と同様のことが言えます。読者によって「文の主語―述語」が異なる」ということはありません。構文もまた、どんな筆者であろうと、どんな読者であろうと、客観的に機能します。

最後に、③論理ですが、ここが本講義の最大の特徴です。①文法や②構文は「日本語」という言葉のルールです。それに対し、③論理は「日本語」だけにとどまりません。あらゆる言語に及ぶ最も普遍的なルールといってよいでしょう。数式が世界共通の言葉であるように、論理もまた世界共通の普遍的ルールなのです。本講義では論理を以下の「４つの言葉のルール」と「４つの言葉の使い方」とします。

- **「でない」という否定**
- **「かつ」という連言**
- **「または」という選言**
- **「ならば」という条件法**

以上の４つの言葉のルールを駆使して筆者は文を書きます。ですから、読者も４つの言葉のルールを理解して読まなければなりません。本講義ではその「ルール」と「方法」を伝えます。

柳生　好之

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

受講の際の注意点　効果的な講義の利用法

最高の講義を用意しましたが、ただ映像を見るだけでは力はつきません。効果的に学習するためにも、この利用法を実践してください。

Ⅰ　予習について

まず一度本文を通読し、「要旨把握」と「意味段落分け」をしてください。そして次に、「設問」や「傍線部」を確認してから、「解答の根拠」を本文中に求めてください。最後に、本文中の解答の根拠をもとにして「記述解答」を書いてください。

Ｐａｒｔ１は「制限時間なし」でよいのですべての問題に解答して下さい。その際、「解答の根拠とした文」に線を引いておいてください。できれば、「その部分を解答の根拠とした理由」をメモ欄に書いておいてください。

この作業を予習の段階でしておくことで、講義に集中できる仕組みになっています。

Ｐａｒｔ２は制限時間内に解いてください。場合によっては一部の問題を「捨て問」と判断するのも良いでしょう。制限時間内で合格点をとる練習をします。

予習ポイント　問題を解く。解答の根拠をメモしておく。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⅱ　講義について

映像授業だからといって安易に止めたりしないでください。集中力を維持するトレーニングも兼ねていますので、必ずチャプターを通して受講してください。

そして、

映像授業を受講している間は、メモを取らないでください。

ただ見たことをノートに写す、あるいは聞いたことをその場でメモに書くというのは、「頭の中には何も残っていない」状態になりやすいのです。ですから、一つのチャプターが終わった後に、講義を思い出しながら線を引いたりノートに説明や図を書いたりしてください。あくまでも「一度頭の中に置いた」上で、「頭の中から取り出す」という作業を怠らないでください。この作業が「文章を読み、解答を書く」という現代文の解答プロセスのトレーニングになるのです。

講義ポイント　**講義中はメモを取らない。説明や図は講義後ノートに書く。**

Ⅲ　復習について

よく「現代文は復習しなくてもよい」という意見を聞きます。しかし、そもそも「復習しなくてよい」なら、復習して覚えるべきポイントがない「授業」も受ける必要がないでしょう。受験生の貴重な時間をいただくわけですから、本講義は「復習

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ポイント」も用意してあります。

Ｐａｒｔ１の復習

まず、「解法」をしっかり覚えてください。これは現代文を分析する上で必要になる考え方です。現代文は「全く同じ文章」は出題されませんが、ポイントが同じである「類題」は必ず出題されます。その点は数学と同様だと考えてください。

Ｐａｒｔ２の復習

各設問のポイントを講義で解説します。それを頼りに、定着していなかったポイントの再確認をしてください。そして、もう一度同じ問題を解き、解答を書き直してください。解答の書き直しは現代文の力を上げるために必須の作業です。

復習ポイント　**ポイントを踏まえ類題を解く。解答を書き直す。**

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

東京大学現代文対策講座　目次

Ｐａｒｔ１　論理構造と設問の分析編

第一講　傍線部内容説明問題　１９８３年　第四問……p.8
第二講　傍線部理由説明問題　２０１０年　第四問……p.18
第三講　論理構造分析①「否定」「差異」「類似」　２０１１年　第一問……p.36
第四講　論理構造分析②「条件法」「連言」　１９９５年　第一問……p.54
第五講　論理構造分析③「選言」「逆説」「一般化」　２００７年　第四問……p.62

Ｐａｒｔ２　最新過去問研究編

第六講　２０１３年　文理共通第一問……p.76
第七講　２０１４年　文科第四問……p.86
第八講　２０１４年　文理共通第一問……p.96
第九講　２０１５年　文科第四問……p.106
第十講　２０１５年　文理共通第一問……p.114

※本テキストは一部問題において東京大学の入試問題を改変して使用しております。
詳細はテキストをご確認ください。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ｐａｒｔ１　論理構造と設問の分析編

このＰａｒｔ１では基本的な「読み方」と「解き方」を学びます。過去３５年分の東大の過去問の中から厳選した問題を解くことで、効率的に東大が求める「読み方」と「解き方」を身につけましょう。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　傍線部内容説明問題

「傍線部内容説明問題」とは東大現代文において、最もオーソドックスな設問です。そしてこれから始まる「各設問別解法」の土台となる「解法」なので、しっかりとマスターしましょう。

その設問形式は次の通り、

> **傍線部～とあるが、どういうことか　説明せよ。**
> **or**
> **どういう意味か**

というものです。この問題に対して常に一定のフォームでアプローチするように心がけましょう。それが「設問解法」であり、現代文で常に高得点をとるための王道です。

では、どのようにアプローチするかというと、次の通りです。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

傍線部説明問題解法

―「どういうことか」の解答プロセス

①「文構造」を分析する。
・文法的構造
・論理的構造

↓

②「ポイント」を把握する。
・指示語
・比喩表現
・個人言語

↓

③「解答の根拠」となる文と対応させる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

※①「文構造」の分析について

★文法的構造

・主語（主部）―述語（述部）

・修飾語（修飾部）―被修飾語（被修飾部）や目的語（目的格）や補語（補格）など

・接続助詞や連用中止法

・倒置や省略

★論理的構造

・否定　・差異（変化）

・連言　・類似（アナロジー）

・選言　・逆説

・条件法　・因果

設問を解く際には、まずは傍線部（または傍線部を含む一文）の統語論的「構造」を分析することからスタートします。この構造を正確に分析して、なるべく元の構造を生かして、解答を構成するためです。ただし、日本語の慣習的統語規則を鑑みて、受動態から能動態に変換するなど元の構文を変形する場合もあります。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

※②「ポイント」になる語句について

★ **指示語（代名詞）**

㊢ これ、この、このような、このように、それ、その、そのような、そのように　など

㊤ 前者、後者、両者、右の、彼　など

★ **比喩表現　＝　直喩、暗喩、メタファー、レトリック　など**

★ **個人言語　＝　筆者が一般的な意味とは異なる特殊な意味で使っている言葉、学術（専門）用語**

※③「解答の根拠」となる部分との対応について

★ **同値関係**

★ **対立関係**

★ **因果関係**

★ **包摂関係（抽象と具体の関係）**

以上の関係がある部分と対応させせます。

このような関係で対応した部分が、記述解答を書く際の「解答の根拠」となります。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
「どういうことか」を攻略せよ！

第一講　傍線部内容説明問題　1983年第四問

（本問は、設問を一部省略して掲載しています）

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

　いまもし私たちが突然いっさいの言葉というものを忘れてしまったら、私たちの意識はタガの外(はず)れた桶(おけ)のようなもので、つまり私という存在はまったく自分を規定するものがなくなってしまうわけだから、そもそも抽象作用などというものが行えるはずもなく、したがってまた表象作用などということが出来るはずもなく、道具の生産以前に逆戻りしてしまう。残っているのは柔軟なる手だけだ。その点では言語もまた私たちの意識を規定する「存在」である。しかも決定的な「存在」である。そしてァ<u>この「存在」はきわめて間接的である。</u>

　しかし言語活動そのものも、本来の発展段階にふみ入る最初のところで、物質的生産活動のあみの目の中にくみこまれている。そのあみの目とはいうまでもない。生産活動の中でとり結ばれる他の人間との実践的な関係である。人間の生産活動がたった一人の人間で行えるものなら、そもそも言語などというものは必要としないし、生まれもしないだろう。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

言語は実践的な、他の人間たちのためにあってこそ、はじめて私自身のためにある現実的な意識である。そして言語は、意識と同様、まず他の人間との交通の欲求、渇望から生まれたものである。

このような現実的な意識であればこそ、言語は人間の意識を規定する存在となるのであろう。その意味をうけとる他の人間の実在を前提しない言語というものはない。間接性の導入、――それが人間的生産の出発点だが、その間接性をどのように発展させるにせよ、他の人間のためにあってこそ自分のためにあるというその本来の意味を喪失した間接性は、もはや間接性そのものとして意味をなさない。そのようなところでは、言語もまた「自己表出」としての現実的土台を喪(うしな)ってしまうのである。言語は言語特有の間接性の中で独り歩きもするが、自分だけにしか通用しない言語は、実はその自分をすら規定してはいないのである。

むろんいままでの言葉では言いあらわすことの出来ない感情、あたらしい意識が生み出されてきたとき、既存の言葉はもはや「自己表出」としての場とはならない。それはもうあたらしい生命をもりこむことの出来ないものだから、そのあたらしい生命にとっては死語となる。死語を語らねばならないとき、人はその言葉のなかでむなしい疎外の意識におちこむ。それは何も高級なむずかしいところにだけ現れる現象ではない。今日テレビ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
「どういうことか」を攻略せよ！

などで、つぎからつぎへとつくり出される「新語」などは、そのむなしい疎外の、しかもきわめて画一的な「生産」なのだ。その疎外から脱け出すためには、あたらしい言葉が発見されてゆかねばならない。が、その生命が果してあたらしいものか否かを実証するためには、その言葉自身、自らがあたらしい生きた「間接性」であることを実証しなければならないだろう。ィその「間接性」を通して、あたらしい現実がつくり出されてゆかねばならない。他の人間たちのためにあってこそ私自身のためにあるあたらしい現実的な意識がつくり出されてゆかねばならない。その実証を放棄した「自己表出」は、それ自身、何の「間接性」の任務にもたえうるものではないのである。

（梅本克己「唯物史観と現代」）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈠「この『存在』はきわめて間接的である」（傍線部ア）とは、どういうことか、説明せよ。

㈡「その『間接性』を通して、あたらしい現実がつくり出されてゆかねばならない」（傍線部イ）とは、どういうことか、説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　傍線部内容説明問題　講義のまとめ

「どういうことか」の問題とは

←

① 文構造（［①］、［②］）の分析ができているか

② ［③］、［④］、［⑤］を文脈から正確に理解し、かつ、誰にでもわかるように表現できるか

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　傍線部理由説明問題

傍線部の問題の2大パターンが前回の「傍線部説明問題」と今回の「傍線部理由説明問題」です。ではまずその形式から確認しましょう。その設問形式は次の通り、

> **傍線部〜とあるが、なぜか　説明せよ。**
> **or**
> **その理由を**

というものです。この問題に対してもやはり一定のアプローチの仕方があるので、今回はその設問解法を学びましょう。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

傍線部理由説明問題解法

―「なぜか」の解答プロセス

①「文構造」を分析する。
・文法的構造
・論理的構造

↓

②「ポイント」を把握する。
・A → ×
（飛躍している部分）

↓

③「解答の根拠」となる文と対応させる。
・Aの説明
・「論証」のフレームワーク

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⅰ 「A↓x」の発見

論証が必要な命題（文）には「A↓x」という飛躍した部分があります。まずは、どこに飛躍があるかを見つけましょう。

①主語（主部）↓述語（述部）に飛躍がある場合。
②修飾部（接続部）↓被修飾部（被接続部）に飛躍がある場合。

※文構造（係り受け）を分析する中で、構造的につながっているが、意味的につながっていない部分を探します。
※「x」は、「なぜ『〜』か」というように設問が指定している場合もあります。

Ⅱ 論証部の発見

飛躍を埋める部分が論証部となります。「A↓x」のAの説明を求めましょう。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⅲ「論証」のフレームワーク

①「単純な論証」　A → B

根拠Aから主張Bが導かれている。

例文　A子ちゃんは美人だ。　　　根拠　A

したがって、導出 ←

私はA子ちゃんが好きである。　主張　B

※実はこの導出に必要な前提として、「私は美人が好きだ。」というものがあります。
これは「隠れた前提」として筆者の論証が成り立つように補ってやる必要があります。
筆者の論証が成り立つように隠れた前提を補うというルールを「**寛大の原則**」といいます。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

②「論証の連鎖」　A　→　B　→　C

主張Aが根拠Aとなって主張Bが導かれ、その主張Bが根拠Bとなって主張Cが導かれる。

例文　A子ちゃんは目鼻立ちがはっきりしている。　主張　A　＝　根拠　A

したがって、導出　↓

A子ちゃんは美人だ。　主張　B　＝　根拠　B

したがって、導出　↓

私はA子ちゃんが好きである。　主張　C

※この形が「論証」の中では一番多いです。「論証」の最後に来る文が「主張提示文」になります。
その前の文は「根拠」となります。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③「結合論証」

B ＋ A
―――――
↓
C

主張AとBが組み合わさって一つの根拠を形成し、主張Cが結論付けられる。

例文

A子ちゃんは美人だ。	主張A	
＋　結合		＝　根拠
私は美人が好きだ。	主張B	

したがって、導出 ←

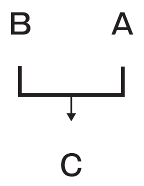
私はA子ちゃんが好きである。　主張C

※21ページに説明した「隠れた前提」がある場合、この「結合論証」となります。この形も「理由説明問題」ではよく出題されます。

※「Aのみ」「Bのみ」の解答は減点されます。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「合流論証」



根拠Aだけでなく根拠Bもあり、主張Cが導かれる。

例文　A子ちゃんは美人だ。　根拠　A

また、

A子ちゃんは性格もよい。　根拠　B

したがって、導出 ←

私はA子ちゃんが好きである。　主張　C

※この場合はどちらか片方だけでも「根拠」になります。
設問の場合には「理由を二つ説明せよ」となることが多いです。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⅳ　論証を捉えるヒント

A　帰結の接続表現

「だから」「したがって」「よって」
「それゆえ」「ゆえに」
「それで」（「そこで」）

B　理由の接続表現

「なぜなら」「というのは（も）」
「けだし」「だって」

C　助詞など

「〜から」「〜ので」「〜ため」「〜より」「〜のだ」「〜のである」　↓　「〜」が原因・理由を表す

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

D　直接表現、比喩表現など

「理由」「原因」「結果」「帰結」「結論」
「〜から生じる」「〜に根ざしている」
「根源」「背景」など

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（次ページより問題演習）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission

「なぜか」を攻略せよ！

第二講　傍線部理由説明問題　２０１０年第四問

（本問は、設問を一部省略して掲載しています）

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

極めて常識的なことだが、もし詩人が自ら体験し、生活してきた事からだけ感動をひきだし、それを言葉に移すことに終始していたならば、（ア）詩人なんてものは、人間にとって、あってもなくても一向にさしつかえのないつまらないものになるだろう。詩が私たちに必要なのは、そこに詩人の想像力というものがはたらいているからであって、それが無いと、謂(い)うところの実感をも普遍的なものにすることはできない。しかし、場合によっては、その想像力が、作者よりも読者の方により多くあってそのはたらきかけによって、作者をはなれて、作者と読者の中間に、あらかじめ計画されたものではないという意味において、一つの純粋な詩の世界をかいま見せるときがある。生なままで放り出されている実感が、受けとる側に、構築されたものとして、たしかな手ごたえをあたえるのはそういう場合である。私たちは、読者にあるこのような想像力の作用が、ときに、眼前にある物や、日常次元にある平凡な実感に、積極的な詩の力をあたえ、それら

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

を変質させてしまう場合があることをみとめなければならない。それと同時に、またこの関係が逆になっているときのことも考えることができる。すなわち、一見、豊富な想像力と、多彩なイメージによって構築されているように見える作品が、これも読者に想像力があるために、そのはたらきかけによって、内質は日常次元の平凡な生活感情の表現にすぎないことを、たちどころに看破されている場合もあるのである。現代詩は難解だなどと云って、詩を理解する力のないことを、さも謙虚そうに告白している人が、イまったく嘘をついているように私に思えるのは、それによって、彼らがすべての作品の質を習慣的に選別し、自らの立場においてそれを受け入れたり、突き放したりしている、この彼らの中にある想像力に対する自信を喪失してしまった形跡が見えないからだ。それはときに、すきまもなく重層して硬く鱗質化してしまったようなイメージの中へ浸透していって、それをぐらぐらに壊体させる。

　想像力は、それが外見は恣意的に八方に拡散しているように見えるときでも、必ずある方向性を持っている。ただそれは明白な観念や思想のように、直線コースにおいて目標を指示していないから、ときに無方向に見えたり、無統一に見えたりするだけである。詩における想像力は、目標に向かって直進する時期においてよりも、むしろ目標から逆行する時間もふく

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
「なぜか」を攻略せよ！

んだ極端なジグザグコースにおいて、その本来の機能を発揮するものだとさえ考えてよいだろう。想像力の中にある方向とは、このような蛇行状態の中にある意志のようなものであって、目標から背を向けて動いている筋肉のある部分において、その目標をより確実にひきつけているのである。あたかもガラガラ蛇の行進のごとくにだ。現代詩が、一たび、イメージによって考えるということを重視したからには、イメージとイメージがぶつかり、屈折して進行してゆく状態の中に、思想や観念によって考える場合にかんたんに切りすてられているこの目標から背馳（はいち）する力が作用しながら、それが、究極において、作者の想像力に一定の方向と思想性をさえあたえるというこの関係を、詩の力学として、詩人はしっかりとつかんでいなければならない。個別的に分析すると、救いがたいニヒリズムに通じるような否定的な暗いイメージの一つ一つが、重層し、錯綜（さくそう）し、屈折しながら進行してゆく過程で総合され、最後的に読者の精神にそれが達するときは、ケミカルな変化をとげていて、逆に人間に大きな希望と勇気をあたえる要素となっている場合を考えれば、凡（およ）そ詩において、想像力というものはいかなるはたらきをしているかが理解できるだろう。しかし、この否定的なモメントの中に肯定的なモメントを、暗さの中に明るさを（その逆の場合もあるが）、それをとらえることができるのも、詩人の方だけでなく

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

読者の側にもその想像力というものがあるからで、むしろ重大なのはこの方ではないだろうか。私は、現代の詩人は、読者もまた持っているところのこの想像力という能力の計量を、その方法の出発においていくらかあやまっているように思えてならない。

　ここにおいて、再び問題になってくるのは経験である。あるいは経験の質だと云おう。強烈な想像力は、直接経験したことがらを超越するという意味において、現実の次元からとび出すことは可能であっても、ゥその現実の中での経験の質的な核を破壊することはできない。かりに宇宙というイデーをそこにぶっつけても、想像力の行動半径は、この経験の質的な核によって限定される。そして限定されているものであるために、私たちは、その想像力の実体というものを正確に計量することができるのである。どのような詩人の持っている想像力も、その意味で、いついかなる場合においても現実をふんまえ、敢（あ）えていえば、生活をひきずっているものであるといってよいだろう。したがって、想像力の実体をつきとめるということは、それがふんまえている現実を、生活現実をあからさまにするということに他（ほか）ならない。

（小野十三郎「想像力」）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈠「詩人なんてものは、人間にとって、あってもなくても一向にさしつかえのないつまらないものになるだろう」（傍線部ア）とあるが、それはなぜか、説明せよ。

㈡「まったく嘘をついているように私に思える」（傍線部イ）とあるが、それはなぜか、説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈢　「その現実の中での経験の質的な核を破壊することはできない」（傍線部ウ）とあるが、それはなぜか、説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　傍線部理由説明問題　講義のまとめ

「なぜか」の問題とは

←

① 文構造（[①]、[②]）の分析ができているか

② [③]を分析し、その[③]を埋める[④]を読めるか

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　論理構造分析①　「否定」「差異」「類似」

「否定（でない）」について

「否定」とは対立する概念「補集合」を作り出す言葉です。否定の前後には「対義語」または「対立する内容」がくるということを確認しましょう。

この否定は、「傍線部内容説明問題」などを中心にどの設問にもからむ可能性のあるもので、論理的読解の一番の基礎になるものです。正確に分析できるようになって下さい。

「否定」のフレームワーク

① A　ではなく　B　である。
② A　よりむしろ　B
③ A　のようで実は　B

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「否定」のルール

Ⅰ、矛盾律　「（AはBであり、かつ、Bでない）ということはない」
（AはBであり、かつ、Bでない）を矛盾という。

Ⅱ、排中律　「AはBであるか、または、Bでないかのどちらかである」

Ⅲ、二重否定取り　「Aでない（でない）→　A」

Ⅳ、背理法　「Aを仮定して矛盾が導かれるとき、Aでないと結論してよい」

「差異」のフレームワーク

① A は X であるのに対し、B は Y（Xでない）である。
② A は X であるのとは異なり（とは違って）、B は Y（Xでない）である。
③ A は X であるのとは別に（とは逆に）、B は Y（Xでない）である。

※　二者（AとB）の違いを説明するフレームワーク。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⅰ、重要概念対義語

□**主観**　①　対象を認識する自分の意識。
　②　自分だけの感覚や考え。

□**客観**　⇔　①　自分の意識と関わりなく存在する対象。
　②　誰にとっても同じであること。
　③　第三者の立場や考え。

□**主体**　自らの意思に基づいて行動し、その作用を他に及ぼすもの。

□**客体（対象）**　⇔　主体の認識、行為の対象となるもの。

□**普遍**　いついかなる時代や場所でも当てはまること。

□**特殊**　⇔　①　他のものとは異なること。
　②　限られた部分や状況にしか当てはまらないこと。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

□**絶対**　①　他に比較するものや対立するものがないこと。

②　他のものに制約・制限されないこと。

□**相対**　↔　他との比較や関係において成り立つこと。

（参考）**相対化**　他との比較において客観的に捉えるようになること。

相対主義　唯一絶対のものを認めずそれぞれの固有の在り方を認める考え。

□**抽象**　個々の物事から、それらに共通する性質を抜き出すこと。

□**具体**　↔　①　はっきりとした形や内容を持っていること。

②　現実に即していること。

□**捨象**　抽象する際に抜き出される性質以外の部分を切り捨てること。

□**分析**　複雑な事柄、現象を部分や要素に分けて、その内容や性質を明らかにすること。

（参考）**要素論**　要素（＝それ以上簡単なものに分析できないもの）を調べることで全体を理解しようとする考え方のこと。

□**総合**　↔　ばらばらになった個々の要素をまとめあげること。

（参考）**機械論**　物事を精密に組み立てられた機械のように見なす考え方。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

□**有機**　一つ一つの要素が集まり、相互につながりを持っていて、よくまとまっている様子。

□**無機**　↔　整然とした機械のように、生命が感じられず、温かみのない様子。

□**現象**　ある物事が形となって表れたもの。

□**本質**　↔　個々の現象の背後にあってそれを成り立たせているもの。

□**帰納**　一つ一つの事例から一般的な法則を抽き出すこと。

□**演繹**　↔　一般的な法則から一つ一つの具体的な結論を出すこと。

□**理論**　物事を説明するためのまとまった論や知識。

□**実践**　↔　実際に行動に移すこと。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⅱ、近代的二項対立語

□精神　人の心の働きのこと。

↔

□身体　人間の物質的な側面のこと。

□理性　合理的に物事を判断する心の働き。

↔

□狂気　常軌を逸したこと。また、そのような心。

□文明　人間が科学技術により生み出した生活習慣や社会的な決まりごとが認められている状態・社会のこと。

↔

□未開（野蛮）　まだ文明社会の生活習慣が入り込んでいない状態・社会のこと。

□意識　自分が何をしているかまたはしようとしているかに気づいていること。

↔

□無意識　①自分の振る舞いに気づいていないこと。

②心の深層にあり、主体の行動に影響を与えるもの。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

□**自律**　↔　□**他律**

自分で自分を律すること。それだけで成立していること。

他からの命令・強制に従って行動すること。

□**自立**　↔　□**依存**

自分だけの力でやっていくこと。

自分以外のものに頼っていること。

□**自由**　↔　□**拘束（束縛、強制）**

心のままであること。責任を持って何かをすることに障害（束縛、強制）がないこと。

行動の自由を制限し、または停止すること。

□**個人**　↔　□**社会**

一人の人間。

人間が集まって共同生活をする集団。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

□**正常**　正しい状態にあること。普通であること。

↔

□**異常**　普通とは異なっていること。

□**秩序（コスモス）**　整然とまとまっている様子。

↔

□**混沌（カオス）**　物事がバラバラな状態。

□**画一**　整然とまとまっている様子。

↔

□**多様**　物事がバラバラな状態。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「類似」のフレームワーク

①　A　は　X　である。
　　また（同様に、それと似て）
　　B　も　X　である。
②　A　と　B　は　ともに　X　である。
③　A　と同様に　B　も（また）　X　である。
④　A　と　B　は　X　という点で同じである。

※　「類似」のフレームワークとは、何か（A）と何か（B）の共通点について述べる時に使われるフレームワークです。
※　「も」という副助詞や、「また」という副詞に注意すると類似は見つけやすくなります。
※　類似を使った比喩を「類比」と言います。
※　類似は「アナロジー」「類推」という言い方もあります。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（次ページより問題演習）

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
「差異」と「類似」を攻略せよ！

第三講　論理構造分析①　２０１１年第一問

（本問は、設問を一部省略して掲載しています）

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

河川は人間の経験を豊かにする空間である。人間は、本質的に身体的存在であることによって、空間的経験を積むことができる。このような経験を積む空間を「身体空間」と呼ぼう。河川という空間は、「流れ」を経験できる身体空間である。

河川の体験は、流れる水と水のさまざまな様態の体験である。と同時に、身体的移動のなかでの風景体験である。河川の整備と河川を活かした都市の再構築ということであれば、流れる水の知覚とそこを移動する身体に出現する風景の多様な経験を可能にするような整備が必要だということである。

河川整備の意味は、河川の整備が同時に、河川に沿う道の整備でもあるという点に関わっている。場合によって、道は、水面に近いことも、あるいは水面よりもずいぶんと高くなっていることもある。どちらにしても、ひとは歩道を歩きながら、川を体験し、また川の背景となっている都市の

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

風景を体験し、そしてまた、そこを歩く自己の体験を意識する。

　河川の体験とは、河川空間での自己の身体意識である。風景とはじつはそれぞれの身体に出現する空間の表情にほかならないからである。風景の意味はひとそれぞれによって異なっている。河川の空間が豊かな空間であるということは、何かが豊かに造られているから豊かだ、ということではない。とりわけて何もつくられていなくても、たとえば、ただ川に沿って道があり、川辺には草が生えていて、水鳥が遊び、魚が跳ねる、ということであっても、そのような風景の知覚がひとそれぞれに多様な経験を与える。体験の多様性の可能性が空間の豊かさである。

　豊かさの内容が固定化された概念によって捉（とら）えられると、その概念によって空間の再編が行われる。たとえば「親水護岸」は水に親しむという行為を可能にするように再編された空間であるから、空間を豊かにすることであるように思われるが、その空間は「水辺に下りる」「水辺を歩く」というコンセプトを実現する空間にすぎない。そこでひとは、たしかに水辺に下りること、水辺を歩くことはできるが、それ以外のことをする可能性は排除されてしまう。この排除は川という本来自然のものが概念という人工のものによって置換されるということを意味している。それはア本来身体空間であるべきものが概念空間によって置換されている事態と捉える

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
「差異」と「類似」を攻略せよ！

ことができる。

たとえば、流れに沿って歩いていくと、河川整備の区間によってそれを整備した事業者の違いによって、景観がちぐはぐになっていることがある。もちろんこれは同じ風景が連続していることがよいということではない。問題なのは、土を中心につくられている上流の景観が下流にいくに従って、大きな石によって組み立てられているような場合である。これは、川の相を無視し、事業主体の概念が流れる川を区分けし、その区分けされた川の断片を概念化した結果である。

川は、流れ来る未知なる過去と流れ去る未知なる未来とを結ぶ現在の風景である。この風景を完全に既知の概念によって管理すること、コントロールすることは、川の本質に逆らうことになる。「河川の空間デザイン」という言い方には、危ういところが感じられるが、それは川のもつ未知なるものを完全に人間の概念的思考によってコントロールしうるもの、すべきものという発想が隠れているからである。

完全にコントロールされた概念空間に対して、河川の空間にもとめられているのは、新しい体験が生まれ、新しい発想が生まれ出るような創造的な空間である。川は見えない空間から流れてきて、再び見えない空間へと流れ去る。だから川は人生に喩（たと）えられる。人生は、概念で完全にコントロー

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

ルできるようなものではない。川が完全にコントロールされた存在であるならば、川の風景に出会うひとには、そのコントロールされた概念に出会うだけであろう。そうなると、川は、訪れた人びとそれぞれの創造性とは無縁のものとなってしまう。

　都市空間は、設計から施工、竣（しゅん）工のプロセスで完成する。建造物が空間をセッティングして、そこで人びとの生活と活動が行われる。空間の創造は、その生活と活動の空間の創造である。人びとの活動の起点は建造物の建築の終点であるが、都市計画そのものは竣工の時点が終点である。しかし、河川空間の事情は異なっている。竣工の時点が河川空間の完成時ではない。むしろ河川工事の竣工は、河川の空間が育つ起点となる。イ<u>それは庭園に類似している</u>。樹木の植栽は、庭の完成ではなく、育成の起点だからである。

　だから、河川を活かした都市の再構築というとき、時間意識が必要である。川は長い時間をかけて育つもの、自然の力によって育つものであり、人間はその手助けをすべきものである。自然の力と人間の手助けによって川に個性が生まれる。時間をかけて育てた空間だけが、その川の川らしさ、つまり、個性をもつことができる。

ウ<u>河川の空間は、時間の経過とともに履歴を積み上げていく</u>。その履歴

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
「差異」と「類似」を攻略せよ！

が空間に意味を与えるのである。では、この時間にもとづく意味付与は、概念的コントロールによる意味付与とどこが異なるのだろうか。概念的コントロールによる意味付与は、河川空間の設計者の頭のなかにある空間意味づけであり、河川とはこういうものであるべきだ、という強制力をもつ。そのような概念によってつくられた空間に接するとき、風景は抑圧的なものになってしまう。風景に接したひとが自由な想像力のもとでそれぞれの個性的な経験を積み、固有の履歴を積み上げることを阻害してしまう。

流れる水が過去から流れてきて、未来へと流れ去るように、河川の空間は、本来、時間を意識させる空間として存在する。つまり川の空間は、独特の空間の履歴をもつ。履歴は概念のコントロールとは違って、一握りの人間の頭脳のなかに存在するものではない。多くの人びとの経験の蓄積を含み、さらに自然の営みをも含む。こうして積み上げられた空間の履歴が、その空間に住み、またそこを訪れるそれぞれのひとが固有の履歴を構築する基盤となる。

人間はいま眼の前に広がる風景だけを見ているのではない。たとえば、わたしは昔の清流を知っているので、いまの川の水の色を見れば、どれほど空間が貧しくなったかを想像することができる。その人の経験の積み重ね、つまり、そのひとの履歴と空間に蓄積された空間の履歴との交差こそ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

が風景を構築するのである。一人ひとりが自分の履歴をベースに河川空間に赴き、風景を知覚する。だからその風景は人びとに共有される空間の風景であるとともに、そのひと固有の風景でもある。風景こそ自己と世界、自己と他者が出会う場である。空間再編の設計は、ひとにぎりの人びとの概念の押しつけであってはならない。

（桑子敏雄『風景のなかの環境哲学』）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈠「本来身体空間であるべきものが概念空間によって置換されている事態」（傍線部ア）とはどういうことか、説明せよ。

㈡「それは庭園に類似している」（傍線部イ）とあるが、なぜそういえるのか、説明せよ。

㈢「河川の空間は、時間の経過とともに履歴を積み上げていく」（傍線部ウ）とあるが、どういうことか、説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講

論理構造分析①　講義のまとめ

「否定」のフレームワーク　①

「差異」のフレームワーク　②

「類似」のフレームワーク　③

に注意して、読み、書く。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　論理構造分析②「条件法」「連言」

「条件法」のフレームワーク

①　A　ならば　B　(AはBである。)→(命題)
②　A　の条件(前提、本質、基本)は　B　である。
③　A　は常に(必ず、絶対)　B
④　すべての　A　は　B　である。(全称文)
⑤　A　のためには　B　でなければならない。(AのためにはBである必要がある。)
⑥　B　でないならば　A　でない。
⑦　B　以外には　A　はない。
⑧　B　のときのみ(だけ、に限り)　A
⑨　B　は　A　でありうる。(BにはAの可能性がある。)
⑩　B　してはじめて(してこそ)　A

※　A　は　十分条件、B　は　必要条件

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「連言」のフレームワーク

①　A　かつ　B
②　A　さらに、しかも、そのうえ、加えて、B　さえも
③　A　しかし、だが、けれど、B
④　A　だけでなく、のみならず　B　も
⑤　A　と（や）B
⑥　A　つつ、ながら、同時に、ともに、B
⑦　A　である　B　が存在する。（存在文）
⑧　一方　A　、他方　B　。

Ⅰ、「かつ入れ」＝　本文「A」、「B」↓　解答「AかつB」は正解

Ⅱ、「かつ取り」＝　本文「AかつB」↓　解答「A」は正解
＝　本文「AかつB」↓　解答「B」は正解

※「AかつB」が「C」の必要十分条件のとき、Cの説明の解答としては「Aのみ」、「Bのみ」は間違いとなる

Ⅲ、「かつひっかけ」＝　本文「A」↓　解答「AかつB」は間違い

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
「条件法」と「連言」を攻略せよ！

第四講　**論理構造分析②　1995年第一問**

（本問は、設問を一部省略して掲載しています）

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

物との結びつきを根本的に変質させ、社会との結びつきを根底的に変化させつつある私たちにとって、そこでの出来事の生成と着床のあり方は、経験におけるそれとは正反対である。正反対であるような変質であり、変化なのである。その「結びつき」が含んでいた物事のあらゆる局面は、時間とともに結晶するのではなく、反対に一つ一つその輪郭と形状と特性とを曖昧にし消失していく。それはくっきりと刻まれ印づけられるということがない。この限りで現代の私たちを貫く「自然過程」は、見かけのどのような装いにもかかわらず、衰弱であり減退である。私たちが何を失（な）くし何を忘れ去ったのかさえ判然としない「忘却の忘却」は、ア<u>その端的な現れ</u>にほかならない。

　ささやかでも全力を振りしぼってこの時代的傾性に抵抗しようとするなら、少なくとも私たちには、喪失したものに対する鎮魂と消滅しつつあるものに対する敬意とを含むような認識が欠かせないだろう。失われて過去

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

に深く埋もれたままの物事に、それが待ちうけているであろう新たな眼差(まなざ)しを注ぎ、現に消滅しつつある物事には、それが充分にかけがえのない「働き」をなしとげたのかを見届けねばならない。事物一つ一つの身の上に投じられる(イ)鎮魂的認識と物質的想像力とが、私たちには肝要なのである。そうして事物の伝記を形づくる、その物事の来し方と行く末とを貫く運動に対して注意深くなければならない。

かつてホッブスは、その感覚の解剖学において、物事の中断された運動や消失ないし除去された対象が、そのあとに残す感覚的映像のせめぎあいについて考え、それを「衰えゆく感覚」(decaying sense)として把(とら)えた。人間が目にした事物の印象や耳にした物音の行方に注意を向けて、それが消滅したり遠ざけられたあとに、衰退しながら「なおも残る」感覚的な経験を力学的な運動として捉えようとしたのである。それを借りて言えば、私たちの経験世界は、激烈な「衰えゆく感覚」運動のなかにあるのではないか。いわば感覚は定着すべき基礎をもたず、ただちに映像化の過程に移行してしまうのではないか。感覚の対象との結びつきが弱ければ弱いほど、その衰退の過程は加速され、交替のサイクルは短縮されるだろう。物事との交渉が稀薄であれば、ホッブスが言うように、私たちの感覚映像は「日中の騒音における人の声」程度にしか刻印されないからである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission 「条件法」と「連言」を攻略せよ！

「衰えゆく感覚」の与件そのものがすさまじいことは言うまでもないだろう。たとえば「人間について大地は万巻の書より多くを教える。大地が人間に抵抗するがゆえに。」（サン＝テグジュペリ）という生の基盤としての大地自体がいまや決定的な変貌をとげつつある。地表を隈なく覆おうとする開発の全精力は、「抵抗」すなわち自然が帯びる「不快さ」の除去に集中しているようにみえる。削られ均(な)らされ整えられた土地という名の物件は、種々様々の抵抗を孕(はら)んだ大地の形姿そのものを「衰えゆく」ものとするだろう。曲がりくねり凹凸があり障害物を含むからこそ大地なのだとすれば、その映像を後退させ衰弱させて、直線や平面という幾何学的図形の印象が取って代わるのである。こうして私たちの「内面」は幾何学化されていくのだ。しかも、万巻の書にまさるという「抵抗」を排除する一方で、ますます学習と教育に熱をあげている。どこで何を学ぼうというのだろうか。

そうであるなら、私たちは、消滅して「もはやない」ものと生成の「まだない」ものとの関連について語るよりも、いや語るまえに、むしろ「もはやない」と「まだなお」とのそれに注目すべきではないか。私たちにとって「もはやない」は、「まだない」を対項として予想することができるのだろうか。あるいは不可欠の契機としてそれと切り結ぶことがないのでは

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

ないか。つまり、「もはやない」はそれとして成立しえず、したがって「まだない」を着床させることができずに、いわば繰りかえし流産してしまうのではないか。そうであるとすれば、むしろ「もはやない」を成り立たしめ、忘却の忘却からそれを救い出すためにも、ゥ私たちは「まだなお」に対してこそ注意深くなければならないだろう。ここで「まだなお」とは、ホッブスの「なおも残る」映像すなわち残像である。少なくとも「もはやない」ものの危機的事態からすれば、それは残像であるほかないだろう。私たちが身を置いているのは、そのような「残像」文化なのではないか。

（市村弘正「小さなものの諸形態」）

〔注〕○ホッブス——Thomas Hobbes（一五八八～一六七九）。イギリスの哲学者。
○サン＝テグジュペリ——Antoine de Saint-Exupéry（一九〇〇～一九四四）。フランスの小説家。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈠「その端的な現れ」（傍線部ア）とはどのようなことか、「その」の内容を明らかにしつつ説明せよ。

㈡「鎮魂的認識と物質的想像力」（傍線部イ）とはそれぞれどのようなことか、わかりやすく説明せよ。

㈢「私たちは「まだなお」に対してこそ注意深くなければならない」（傍線部ウ）のはなぜか、その理由を「まだなお」の内容を明らかにしつつ説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講

論理構造分析② 講義のまとめ

「条件法」のフレームワーク ①

「連言」のフレームワーク ②

に注意して、読み、書く。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　論理構造分析③　「選言」「逆説」「一般化」

「選言」のフレームワーク

①　Ａ　または　Ｂ
②　Ａ　あるいは　Ｂ
③　Ａ　もしくは、Ｂ
④　Ａ　ないし（は）　Ｂ
⑤　Ａ　か　Ｂ

Ⅰ、「または入れ」＝本文「Ａ」→解答「ＡまたはＢ」は正解
＝本文「Ｂ」→解答「ＡまたはＢ」は正解

Ⅱ、「または取り」＝本文「ＡまたはＢ。Ａでない」→解答「Ｂ」は正解
＝本文「ＡまたはＢ。Ｂでない」→解答「Ａ」は正解

Ⅲ、「またはひっかけ」＝本文「ＡまたはＢ」→解答「Ａ」は間違い
＝本文「ＡまたはＢ」→解答「Ｂ」は間違い

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「逆説（パラドックス）」とは

「逆説」とは二つの意味で押さえてください。

①　一見すると真理に背いているように見えて、実は一面の真理を言い表している表現。
②　解きがたい矛盾を抱えた表現や事態。

「逆説」のフレームワーク

①　A（⊕ or ⊖）するとかえって、B（⊖ or ⊕）→「ならば」系
②　A（⊕ or ⊖）と同時に、B（⊖ or ⊕）→「かつ」系

例文　①　勉強すると、かえって成績が下がる。
②　東大現代文は難しくもあり、同時に簡単でもある。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「一般化」とは

個別的な違いを捨てて共通のものを残すことによって広く通じる概念・法則をつくること。

「一般化」とは個別的、具体的に見れば異なる事象に共通点を見いだして、まだ見たことのない事象にも応用可能な本質的原理を作り出す作業です。この作業はあらゆる学問（科学）の基本であるため、東大はその力その姿勢が受験生にあるのかを見たいのです。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（次ページより問題演習）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission

「選言」と「逆説」を攻略せよ！

第五講　論理構造分析③　２００７年第四問

（本問は、設問を一部省略して掲載しています）

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

詩におけるさりげない一つの言葉、あるいは絵画におけるさりげない一つのタッチ、そうしたものに作者の千万無量の思いが密（ひそ）かにこめられたとしても、そのように埋蔵されたものの重みは、容易なことでは鑑賞者の心に伝わるものではあるまい。作品と鑑賞者がなんらかの偶然によってよほどうまく邂逅（かいこう）しないかぎり、ア その秘密の直観的な理解はふつうは望めない。

しかし、そうした表現と伝達の事情において、やはり比較的深くといった段階にとどまるものではあるが、例外的と言っていい場合もいくらかはないわけではないだろう。そこでは、時代と個人的な作風との微妙な緊張関係がうまく永遠化されているのだろうが、たとえば十七世紀前半のオランダにおける巨匠レンブラント・ファン・ラインの晩年のいくつかの作品に眺められる重厚な筆触の一つ一つは、今日のぼくなどにまで、そこにこめられているにちがいない経験の痛みのようなもの、言いかえれば、人生

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

への深沈とした観照の繰返された重さをひしひしと感じさせるようである。「レンブラント、呟きに満ちあふれた悲しい病院」と歌ったのはボードレールであるが、そうした呟きの一つ一つに、こちらの内部に谺する、いくらか暗く、そしてはげしい人間的な哀歓を感じるのである。

　レンブラントのそうした作品の中から、有名な傑作ではあるが、ぼくはここにやはり、『ユダヤの花嫁』を選んでみたい。彼の死に先立つ三年前に描かれたこの作品のモデルは、息子のティトゥスとその新婦ともいわれ、また、ユダヤの詩人バリオスとその新婦ともいわれている。さらに、旧約聖書の人物であるイサクとリベカ、あるいはヤコブとラケルをイメージしたものだともいわれている。しかし、そうした予備知識はなくてもいい。茶色がかって暗く寂しい公園のようなところを背景にして、新郎はくすんだ金色の、新婦は少しさめた緋色の、それぞれいくらか東方的で古めかしい衣裳をまとっているが、いかにもレンブラント風なこの色調は、人間の本質についての瞑想にふさわしいものである。そうした色調の雰囲気の中で、いわば、筆触の一つ一つの裏がわに潜んでいる特殊で個人的な感慨が、おおらかな全体的調和をかもしだし、素晴らしい普遍性にまで高まって行くようだ。この絵画における永遠の現在の感慨の中には、見知らぬ古代におけるそうした場合の古い情緒も、同じく見知らぬ未来におけるそうした

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
「選言」と「逆説」を攻略せよ！

場合の新しい情緒も、イひとしく奥深いところで溶けあっているような感じがする。こうした作品を前にするときは、人間の歩みというものについて、ふと、巨視的にならざるをえない一瞬の眩暈（げんうん）とでも言ったものを覚えるのである。

ところで、この場合、問題を集中的に表現しているものとして、新郎と新婦の手の位置と形、そしてそれを彩る筆触に最も心を惹（ひ）かれるのは、きわめて自然なことだろう。なぜならそれは、夫婦愛における男と女の立場のちがい、そして性質のちがいを、まことに端的に示しているように思われるからである。男の方の手は、女を外側から包むようにして、所有、保護、優しさ、誠実さなどの渾然（こんぜん）とした静けさを現わしているし、女の方の手は、男のそうした積極性を今や無心に受け容（い）れることによって、いわば逆の形の所有、信頼、優しさ、献身などのやはり溶け合った充実を示しているのだ。

ぼくが嘆賞してやまないのは、こうした瞬間を選びとったというか、それともそこに夥（おびただ）しいものを凝縮したというか、いずれにせよ、狙（ねら）いあやまらぬレンブラントの透徹していてしかも慈しみに溢（あふ）れた眼光である。暗くさびしい現実を背景として、新しい夫婦愛の高潮し均衡する、いわばこよなく危うい姿がそこには描きだされているのである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

ぼくは今、「危うい」と書いた。それは苛酷な現実によって悲惨なものにまで転落する危険性が充分にあるというほどの意味である。その悲惨は、人間が大昔から何回となく繰返してきた不幸である。しかし、この絵画にかたどられようとしている理想的な美しさは、ウ人間が未来にわたってさらに執拗に何回となく繰返す希望といったものだろう。

先ほどボードレールの詩句を引用したせいか、彼の『覚え書き』の中のある個所がここでまたふと思いだされる。もっともそれは、レンブラントとはまったく関係なしに書かれた言葉で、男女の愛について述べられた抽象的な一つの感想である。彼はこう言っている、「恋愛は寛容の感情に源を発することができる。売春の趣味。しかし、それはやがて所有の趣味によって腐敗させられる。」

いかにも『悪の花花』の詩人にふさわしい言い廻しであり、世俗の道徳の権威に反抗して、性愛における「自我の蒸発と集中」の自由をのびやかに擁護しているものだろう。ぼくもまた、快楽主義と言うよりは一種の潔癖な独立の趣味を想像させるこのアナルシーに、爽やかな近代の感触をおぼえるものである。しかし、レンブラントの『ユダヤの花嫁』のように時代を超えて人間の永遠的なものを啓示している絵画を前にするとき、ぼくは、そこで成就されている所有の高次な肯定――純粋な相互所有による腐

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission

「選言」と「逆説」を攻略せよ！

敗の消去法とでもいった深沈とした美しさの定着に、より強く魅惑されざるをえない。その美しさは、先ほど記したように、危うく脆(もろ)いものであるかもしれない。しかし、幸福とは、いずれにせよ瞬間のもの、あるいは断続的な瞬間のものだろう。また、この世の中に、絶対的な誠実というものはありえない。ある一人に対する、他の人たちに対するよりも多くの誠実が、結果としてあるだけで、しかも、主観的な誠実が必ずしも客観的な誠実ではないという、困難な状況におかれることもある。したがって、問題は、幸福と呼ばれる瞬間の継起のために、可能なかぎり誠実であろうとする愛の内容が、相互性を通じて、結婚という形式そのものであるような、まさに内実と外形の区別ができない生の謳歌(おうか)の眩(まば)ゆさにあるのだ。

（清岡卓行『手の変幻』）

〔注〕
○レンブラント・ファン・ライン――Rembrandt Harmenszoon van Rijn（一六〇六～一六六九）オランダの画家。
○ボードレール――Charles Pierre Baudelaire（一八二一～一八六七）フランスの詩人。
○アナルシー――anarchie（フランス語）無秩序。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈠ 「その秘密の直観的な理解」（傍線部ア）とあるが、どういうことか、説明せよ。

㈡ 「ひとしく奥深いところで溶けあっているような感じがする」（傍線部イ）とあるが、「ひとしく奥深いところで溶けあっている」とは、どういうことか、説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(三)「人間が未来にわたってさらに執拗に何回となく繰返す希望といったものだろう」（傍線部ウ）とあるが、「執拗に何回となく繰返す希望」とはどういうことか、説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講

論理構造分析③　講義のまとめ

「選言」のフレームワーク［①］

「逆説」のフレームワーク［②］

に注意して、読み、書く。

「具体例」などの長い記述は、［③］する。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Part2　最新過去問研究編

このPart2では実践的な試験での解答法を学びます。
2013年から2015年の3年分の東大の過去問を解くことで、試験時間内に合格点を取る方法を身につけましょう。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
６０分で２５／４０点を突破せよ！

第六講　過去問実践演習　２０１３年第一問

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

詩人―作家が言おうとすること、いやむしろ正確に言えば、その書かれた文学作品が言おう、言い表そうと志向することは、それを告げる言い方、表し方、志向する仕方と切り離してはありえない。人々はよく、ある詩人―作家の作品は「しかじかの主張をしている」、「こういうメッセージを伝えている」、「彼の意見、考え、感情、思想はこうである」、と言うことがある。筆者も、ときに〈長くならないよう、短縮し、簡潔に省略するためにせよ〉それに近い言い方をしてしまう場合がある。しかし、実のところ、ある詩人―作家の書いた文学作品が告げようとしているなにか、とりあえず内容・概念的なものとみなされるなにか、言いかえると、その思想、考え、意見、感情などと思われているなにかは、それだけで切り離され、独立して自存していることはないのである。〈意味され、志向されている内容〉は、それを〈意味する仕方、志向する仕方〉の側面、表現形態の面、意味するかたちの側面と一体化して作用することによってしか存在しないし、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

コミュニケートされない。だから〈意味されている内容・概念・イデー〉のみを抜き出して「これこそ詩人―作家の思想であり、告げられたメッセージである」ということはできないのだ。

それゆえまた、詩人―作家のテクストを翻訳する者は、次のような姿勢を避けるべきだろう。つまり翻訳者が、むろん原文テクストの読解のために、いったんそのテクストの語り方の側面、意味するかたちの側面を経由して読み取るのは当然なのであるが、しかしこのフォルム的側面はすぐに読み終えられ、通過されて、もうこの〈意味するかたちの側面〉を気づかうことをやめるという姿勢は取るべきでない。[ア]もっぱら自分が抜き出し、読み取ったと信じる意味内容・概念の側面に注意を集中してしまうという態度を取ってはならない。そうやって自分が読み取った意味内容、つまり〈私〉へと伝達され、〈私〉によって了解された概念的中身・内容が、それだけで独立して、まさにこのテクストの〈言おう、語ろう〉としていることをなす（このテクストの志向であり、意味である）とみなしてはならないのである。

翻訳者は、このようにして自分が読み取り、了解した概念的中身・内容が、それだけで独立して（もうそのフォルム的側面とは無関係に）、このテクストの告げる意味であり、志向であるとみなしてはならず、また、そ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
６０分で２５／４０点を突破せよ！

ういう意味や志向を自分の母語によって読みやすく言い換えればよいと考えてはならないだろう。

　自分が抜き出した中身・内容を、自らの母語によって適切に言い換えれば[a]シュビよく翻訳できると考え、そう実践することは、しばしば読みやすく、理解しやすい翻訳作品を生み出すことになるかもしれない。ただし、そこには、大きな危うさも内包されているのだ。原文のテクストがその独特な語り口、言い方、表現の仕方によって、きわめて微妙なやり方で告げようとしているなにかを十分に気づかうことから眼をそらせてしまうおそれがあるだろう。

　少し極端に言えば、たとえばある翻訳者が「これがランボーの詩の日本語訳である」として読者に提示する詩が、ランボーのテクストの翻訳作品であるというよりも、[イ]はるかに翻訳者による日本語作品であるということもありえるのだ。

　それを避けるためには、やはり翻訳者はできる限り原文テクストを[b]チクゴ的にたどること、〈字句通りに〉翻訳する可能性を追求するべきだろう。原文の〈意味する仕方・様式・かたち〉の側面、表現形態の面、つまり志向する仕方の面に注意を凝らし、それにあたうかぎり忠実であろうとするのである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

その点を踏まえて、もう一度考えてみよう。ランボーが、《Tu voles selon......》（......のままに飛んでいく）と書いたことのうちには、つまりこういう語順、構文、語法として〈意味する作用や働き〉を行なおうとし、なにかを言い表そうと志向したこと、それをコミュニケートしようとしたことのうちには、なにかしら特有な、独特なもの、密かなものが含まれている。翻訳者は、この特有な独特さ、なにか密かなものを絶えず気づかうべきであろう。なぜならそこにはランボーという書き手の（というよりも、そうやって書かれた、このテクストの）独特さ、特異な単独性が込められているからだ。すなわち、通常ひとが〈個性〉と呼ぶもの、芸術家や文学者の〈天分〉とみなすものが宿っているからである。

こうして翻訳者は、相容れない、両立不可能な、とも思える、二つの要請に同時に応えなければならないだろう。その一つは、原文が意味しようとするもの、言おうとし、志向し、コミュニケートしようとするものをよく読み取り、それをできるだけこなれた、達意の日本語にするという課題・任務であり、もう一つは、そのためにも、原文の〈かたち〉の面、すなわち言葉づかい（その語法、シンタックス、用語法、比喩法など）をあたう限り尊重するという課題・任務である。そういう課題・任務に応えるために、翻訳者は、見たとおり、原文＝原語と母語との関わり方を徹底的に考

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
６０分で２５／４０点を突破せよ！

えていく。翻訳者は、原文の〈意味する仕方・様式・かたち〉の側面、表現形態の面、つまり志向する仕方の面を注意深く読み解き、それを自国語の文脈のなかに取り込もうとする。しかし、フランス語における志向する仕方は、日本語における志向する仕方と一致することはほとんどなく、むしろしばしば食い違い、齟齬（そご）をきたし、cマサツを起こす。それゆえ翻訳者は諸々の食い違う志向する仕方を必死になって和合させ、調和させようと努めるのだ。あるやり方で自国語（自らの母語）の枠組みや規範を破り、変えるところまで進みながら、ハーモニーを生み出そうとするのである。

こうして翻訳者は、絶えずウ原語と母語とを対話させることになる。この対話は、おそらく無限に続く対話、終わりなき対話であろう。というのも諸々の食い違う志向の仕方が和合し、調和するということは、来るべきものとして約束されることはあっても、けっして到達されることや実現されることはないからだ。こうした無限の対話のうちに、まさしく翻訳の喜びと苦悩が表裏一体となって存しているだろう。

もしかしたら、エ翻訳という対話は、ある新しい言葉づかい、新しい文体や書き方へと開かれているかもしれない。だからある意味で原文＝原作に新たな生命を吹き込み、成長をdウナガし、生き延びさせるかもしれない。翻訳という試み、原文と（翻訳者の）母語との果てしのない対話は、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

ことによると新しい言葉の在りようへとつながっているかもしれない。そう約束されているかもしれない。こういう約束の地平こそ、ベンヤミンがeシサした翻訳者の使命を継承するものであろう。

そしてこのことは、もっと大きなパースペクティブにおいて見ると、諸々の言語の複数性を引き受けるということ、他者（他なる言語・文化、異なる宗教・社会・慣習・習俗など）を受け止め、よく理解し、相互に認め合っていかねばならないということ、そのためには必然的になんらかの「翻訳」の必然性を受け入れ、その可能性を探り、拡（ひろ）げ、掘り下げていくべきであるということに結ばれているだろう。翻訳は諸々の言語・文化・宗教・慣習の複数性、その違いや差異に細心の注意を払いながら、自らの母語（いわゆる自国の文化・慣習）と他なる言語（異邦の文化・慣習）とを関係させること、対話させ、競い合わせることである。そうだとすれば、オ翻訳という営為は、諸々の言語・文化の差異のあいだを媒介し、可能なかぎり横断していく営みであると言えるのではないだろうか。

（湯浅博雄「ランボーの詩の翻訳について」）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
６０分で２５／４０点を突破せよ！

〔注〕
○フォルム――forme（フランス語）、form（英語）に同じ。
○ランボー――Arthur Rimbaud（一八五四～一八九一）フランスの詩人。
○シンタックス――syntax　構文。
○ベンヤミン――Walter Benjamin（一八九二～一九四〇）ドイツの批評家。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈠「もっぱら自分が抜き出し、読み取ったと信じる意味内容・概念の側面に注意を集中してしまうという態度を取ってはならない」（傍線部ア）とあるが、それはなぜか、説明せよ。

㈡「はるかに翻訳者による日本語作品である」（傍線部イ）とはどういうことか、説明せよ。

㈢「原語と母語とを対話させる」（傍線部ウ）とはどういうことか、説明せよ。

㈣「翻訳という対話は、ある新しい言葉づかい、新しい文体や書き方へと開かれている」（傍線部エ）とあるが、なぜそういえるのか、説明せよ。

㈤「翻訳という営為は、諸々の言語・文化の差異のあいだを媒介し、可能なかぎり横断していく営みである」（傍線部オ）とあるが、なぜそういえるのか、本文全体の趣旨を踏まえた上で、一〇〇字以上一二〇字以内で説明せよ。

㈥傍線部a、b、c、d、eのカタカナに相当する漢字を楷書で書け。

a　シュビ　b　チクゴ　c　マサツ　d　ウナガ（し）　e　シサ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈣		㈢		㈡		㈠	

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈥

a

b

c

d

e

㈤

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
３０分で１２／２０点を突破せよ！

第七講　過去問実践演習　２０１４年第四問

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

仕事の打ち合わせでだれかとはじめて顔を合わせるとき。そんなときには、互いに、見えない触覚を伸ばして話題を探すことになる。もともとは苦手だったそういう事柄が、いつからか嫌でなくなり、いまでは愉(たの)しいひとときにすらなってきた。どのみち避けられないから、嫌ではないはずと自己暗示を掛けているだけかもしれない。いずれにしても、初対面の人と向かい合う時間は、ア日常のなかに、ずぶりと差しこまれる。

先日は、理系の人だった。媒体が児童向けで、科学関係の内容を含むためだった。もちろん、それは対話を進めているうちにわかってくることだ。互いに、過不足のない自己紹介をしてから本題に入る、などということは起こらない。相手の話を聞いているうちに、ずいぶん動植物に詳しい人だなという印象が像を結びはじめる。もしかして、理系ですか、と訊(き)いてみる。

「ええ、そうです。いまの会社に来る前は、環境関係の仕事をしていま

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

した。それもあって、いまの仕事でも植物や動物を取材することが多いんです。この前は蓮(はす)田に行ってきました。蓮根を育てている蓮田です。蓮って、水の中の根がけっこう長いんですよ。思ったよりずっと長くて、びっくり。動物園に行くこともありますよ。撮影にゾウの糞が必要で、ゾウがするまで、じっと待っていたりして」。嬉々(きき)として説明してくれる。だれと会うときでも、相手がどんなことにどんなふうに関心をもっているのか、知ることは面白い。自分には思いもよらない事柄を、気に掛けて生きている人がいると知ることは、知らない本のページをめくる瞬間と似ている。

私たちの前にはカフェ・ラテのカップがあった。その飲み物の表面には、模様が描かれていた。その人は、自分のカップの上へ、首を伸ばすようにした。そして、のぞき見ると「あ、柄が崩れてる」といった。「残念、崩れてる」と繰り返す。私の方は崩れていない。崩れていても一向に構わないので、それならこちらのカップと交換しようと思った瞬間、その人は自分の分を持ち上げて、口をつけた。申し出るタイミングを失う。相手への親近感が湧いてくる。

「台風の後は、植物園に直行するんです」。相手は、秘密を打ち明けるように声をひそめる。「その植物園には、いろんな種類の松が植わっていて。台風の後は、こんな大きい松ぼっくりが拾えるんです」。両手で大きさを

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
３０分で１２／２０点を突破せよ！

示しながら説明してくれる。「それを、リュックに入れて、もらってくるんです」。いっしょに行ったわけではないのに、いつか、そんなことがあった気がする。いっしょに、松ぼっくりを拾った気がする。植物園もまた本に似ている。イ風が荒々しい手つきでめくれば、新たなページが開かれて、見知らぬ言葉が落ちている。植物園への道を幾度も通うその人のなかにも、未知の本がある。耳を傾ける。生きている本は開かれないときもある。こちらの言葉が多くなれば、きっと開かれない。

その人の話を、もっと聞いていたいと思った。どんぐりに卵を産みつける虫の名前を、いくつも挙げられるような人なのだ。打ち合わせだから当然、雑談とは別に本題がある。本題が済めば、店を出る。都心の駅。地下道に入ると、神奈川県の海岸の話になった。相手は、また特別な箱から秘密を取り出すように、声をひそめた。「あのあたりでは、馬の歯を拾えるんです。海岸に埋められた中世の人骨といっしょに、馬の骨も出てくるんです。中世に、馬をたくさん飼っていたでしょう。だからです。私、拾いましたよ、馬の歯」。

「それ、本当に馬の歯ですか」。思わず問い返す。瞬間、相手は、ううんと唸る（うな）。それから「あれは馬です、馬の歯ですよ。本当に、出るんです」。きっぱり答えた。記憶と体験を一点に集める真剣さで、断言した。その口

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

からこぼれる言葉が、一音、一音、遠い浜へ駆けていく。たてがみが流れる。大陸から輸送した陶器のかけらが出るという話題なら珍しくない。事実なのだ。けれど、馬の歯のことは、はじめて聞いた。それから、とくに拾いたいわけではないなと気づく。拾えなくてもいい。ただ、その内容そのものが、はじめて教えられたことだけが帯びるぼんやりとした明るさのなかにあって、心ひかれた。

拾えなくていいと思いながら、馬かどうか、時間が経っても気になる。その人とは、本題についてのやりとりで手いっぱいで、馬の歯のことを改めて訊く機会はない。脇へ置いたまま、いつまでも、幻の馬は脇に繋(つな)いだままで、別の対話が積み重なっていく。馬なのか、馬だったのか、確かめることはできない。

ある日、吉原幸子の詩集『オンディーヌ』（思潮社、一九七二年）を読んでいた。これまで、吉原幸子のよい読者であったことはないけれど、必要があって手に取った。愛、罪、傷など、この詩人の作品について語られるときには必ず出てくる単語が、結局はすべてを表しているように思いながら読み進めるうち、あるページで手がとまった。「虹(にじ)」という詩。その詩は、次のようにはじまる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
３０分で１２／２０点を突破せよ！

どうしたことか　雨のあとの
立てかけたやうな原っぱの斜面に
ぶたが一匹　草をたべてゐる
電車の速さですぐに遠ざかった
（うしでもやぎでもうさぎでもなく）
あれは　たしかにぶただったらうか

なんとなく笑いを誘う。続きを読んでいくと「こころのない人間／抱擁のない愛――」という言葉が出てきて、作者らしさを感じさせる。周囲に配置される言葉も、その重さのなかでぴしりと凍るのだけれど、それでも、第一連には紛れもない可笑しみがあって、この六行だけでも繰り返し読みたい気もちになる。あれは、なんだったのだろう。そんなふうに首を傾げて脳裡の残像をなぞる瞬間は、日常のなかにいくつも生まれる。多くのことは曖昧なまま消えていく。足元を照らす明確さは、いつでも仮のものなのだ。そして、だからこそ、輪郭の曖昧な物事に輪郭を与えようと一歩踏み出すことからは、光がこぼれる。ウ<u>その一歩は消えていく光だ</u>。「虹」という詩の終わりの部分を引用しよう。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

いま　わたしの前に
一枚のまぶしい絵があって
どこかに　大きな間違ひがあることは
わかってゐるのに
それがどこなのか　どうしてもわからない

消えろ　虹

　言葉の上に、苛立（いらだ）ちが流れる。わかることとわからないことのあいだで、途方に暮れるすがたを刻む。鮮度の高い苛立ちがこの詩にはあり、それに触れれば、どきりとさせられる。わからないこと、確かめられないことで埋もれている日々に掛かる虹はどんなだろう。それさえも作者にとっては希望ではない。消えろ、と宣告するのだから。

　拾われる馬の歯。それが本当に馬の歯なら、いつ、だれに飼われていたものだろう。どんな毛の色だったか。人を乗せていただろうか。あるいは荷物を運んだのだろうか。わかることはなにもない。その暗がりのなかで、ただひとつ明らかなことは、これはなんだろう、という疑問形がそこにはあるということだ。問いだけは確かにあるのだ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
３０分で１２／２０点を突破せよ！

問いによって、あらゆるものに近づくことができる。だから、問いとは弱さかもしれないけれど、同時に、もっとも遠くへ届く光なのだろう。「馬の歯を拾えるんです」。その言葉を思い出すと、蹄（ひづめ）の音の化石が軽快に宙を駆けまわる。遠くへ行かれそうな気がしてくる。松ぼっくり。馬の歯。【エ】**掌にのせて、文字のないそんな詩を読む人もいる。**見えない文字がゆっくりと流れていく。

（蜂飼耳「馬の歯」）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈠「日常のなかに、ずぶりと差しこまれる」（傍線部ア）とはどういうことか、説明せよ。

㈡「風が荒々しい手つきでめくれば、新たなページが開かれて、見知らぬ言葉が落ちている」（傍線部イ）とはどういうことか、説明せよ。

㈢「その一歩は消えていく光だ」（傍線部ウ）とはどういうことか、説明せよ。

㈣「掌にのせて、文字のないそんな詩を読む人もいる」（傍線部エ）とはどういうことか、説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(一)		(二)		(三)		(四)	

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
６０分で２５／４０点を突破せよ！

第八講　過去問実践演習　２０１４年第一問

次の文章は、ある精神分析家が自身の仕事と落語とを比較して述べたものである。これを読んで、後の設問に答えよ。

いざ仕事をしているときの落語家と分析家に共通するのは、まず圧倒的な孤独である。落語家は金を払って「楽しませてもらおう」とわざわざやってきた客に対して、たった一人で対峙（たいじ）する。多くの出演者の出る寄席の場合はまだいいが、独演会になるとそれはきわだつ。他のパフォーミングアート、たとえば演劇であれば、うまくいかなくても、共演者や演出家や劇作家や舞台監督や装置や音響のせいにできるかもしれない。落語家には共演者もいないし、みんな同じ古典の根多（ねた）を話しているので作家のせいにもできず、演出家もいない。すべて自分で引き受けるしかない。しかも落語の場合、反応はほとんどその場の笑いでキャッチできる。残酷なまでに結果が演者自身にはねかえってくる。受ける落語家と受けない落語家ははっきりしている。その結果に孤独に向き合い続けて、ともかくも根多を話し切るしかない。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

　分析家も毎日自分を訪れる患者の期待にひとりで対するしかない。そこには誰（だれ）もおらず、患者と分析家だけである。私のオフィスもそうだが、たいてい受付も秘書もおらず、まったく二人きりである。そこで自分の人生の本質的な改善を目指して週何回も金を払って訪れる患者と向き合うのである。分析料金はあまり安くない。普通の医者が一日数十人を相手にできるのに対して、七、八人しか会えないので、一人の患者からある程度いただかないわけにはいかないからだが、たいてい高いと思われる。真っ当な鮨（すし）屋が最初高いように思えることと似ている。そういう料金を払っているわけであるから、患者たちは普通もしくは普通以上に[a]カセいでいる。社会では一人前かそれ以上に機能しているのだが、パーソナルな人生に深い苦悩や不毛や空虚を抱えている人たちである。こういう人たちに子どもだましは通用しない。単なる[b]ナグサめや励ましはかえって事態をこじらす。そうしたなかで、分析家はひとりきりで患者と向き合うのである。何の成果ももたらさないセッションも少なくない。それでもそこに五十分座り続けるしかない。

　多くの観衆の前でたくさんの期待の視線にさらされる落語家の孤独。たったひとりの患者の前でその人生を賭（か）けた期待にさらされる分析家の孤独。どちらがたいへんかはわからない。いずれにせよ、彼らは自分をゆす

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
６０分で２５／４０点を突破せよ！

ぶるほど大きなものの前でたったひとりで事態に向き合い、そこを生き残り、なお何らかの成果を生み出すことが要求されている。それに失敗することは、自分の人生が微妙に、しかし確実に[c]オビヤかされることを意味する。客が来なくなる。患者が来なくなる。

おそらく[ア]このこころを凍らせるような孤独のなかで満足な仕事ができるためには、ある文化を内在化して、それに内側からしっかりと抱えられる必要がある。濃密な長時間の修業、パーソナルで[d]ジョウショ的なものを巻き込んでの修業の過程は、それに役立っているだろう。落語家も分析家も文化と伝統に抱かれて仕事をする。しかし、そうした内側の文化がそのままで通用することは、落語でも精神分析でもありえない。ただ、根多を覚えたとおりにやっても落語にはならないし、理論の教えるとおりに解釈をしても精神分析にはならない。観客と患者という他者を相手にしているからだ。

演劇などのパフォーミングアートにはすべて、何かを演じようとする自分と見る観客を喜ばせようとする自分の分裂が存在する。それは「演じている自分」とそれを「見る自分」の分裂であり、世阿弥が「離見の見」として概念化したものである。落語、特に古典落語においては、習い覚えた根多の様式を踏まえて演（や）りながら、たとえばこれから自分が発するくすぐ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

りをいま目の前にいる観客の視点からみる作業を不断に繰り返す必要がある。昨日大いに観客を笑わせたくすぐりが今日受けるとは限らない。彼はいったん今日の観客になって、演じる自分を見る必要がある。完全に異質な自分と自分との対話が必要なのである。

しかも落語という話芸には、他のパフォーミングアートにはない、さらに異なった次元の分裂の[e]ケイキがはらまれている。それは落語が直接話法の話芸であることによる。落語というものは講談のように話者の視点から語る語り物ではない。言ってみれば地の文がなく、基本的に会話だけで構成されている。端的に言って、落語はひとり芝居である。演者は根多のなかの人物に瞬間瞬間に同一化する。根多に登場する人物たちは、おたがいにぼけたり、つっこんだり、だましたり、ひっかけたりし合っている。そうしたことが成立するには、おたがいがおたがいの意図を知らない複数の他者としてその人物たちがそこに現れなければならない。落語が生き生きと観客に体験されるためには、この他者性を演者が徹底的に維持することが必要である。[イ]落語家の自己はたがいに他者性を帯びた何人もの他者たちによって占められ、分裂する。私の見るところ、優れた落語家のパフォーマンスには、この他者性の維持による生きた対話の運動の心地よさが不可欠である。それはある種のリアリティを私たちに供給し、そのリア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
６０分で２５／４０点を突破せよ！

リティの手ごたえの背景でくすぐりやギャグがきまるのである。

おそらく落語という話芸のユニークさは、こうした分裂のあり方にある。もっと言えば、そうした分裂を楽しんで演じている落語家を見る楽しみが、落語というものを観る喜びの中核にあるのだと思う。そして、人間が本質的に分裂していることこそ、精神分析の基本的想定である。意識と無意識でもいい、自我と超自我とエスでもいい、精神病部分と非精神病部分でもいい、本当の自己と偽りの自己でもいい、自己のなかに自律的に作動する複数の自己があって、それらの対話と交流のなかにウひとまとまりの「私」というある種の錯覚が生成される。それが精神分析の基本的な人間理解のひとつである。落語を観る観客はそうした自分自身の本来的な分裂を、生き生きとした形で外から眺めて楽しむことができるのである。分裂しながらも、ひとりの落語家として生きている人間を見ることに、何か希望のようなものを体験するのである。

エ精神分析家の仕事も実は分裂に彩られている。分析家が患者の一部分になることを通じて患者を理解することを前に述べた。たとえば、こころのなかに激しく自分を迫害する誰かとそれにおびえてなすすべもない無力な自分という世界をもっている患者は、分析家に期待しながらも、迫害されることにおびえて、分析家を遠ざけ絶えず疑惑の目を向け拒絶的になる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

分析家はやがてそのような患者を疎ましく感じ、苛立ち、ついに患者に微妙につらく当たるようになる。こうした過程を通して分析家はまさに患者のこころのなかの迫害者になってしまう。さらに別のことも起きる。分析家は何を言っても患者にはねかえされ、どうしようもないと感じ、なすすべもない無力感を味わう。それは患者のこころのなかの無力な自己になってしまったということである。こうして患者のこころの世界が精神分析状況のなかに具体的に姿を現し、分析家は患者の自己の複数の部分に同時になってしまい、その自己は分裂する。

もちろん、そうして自分でないものになってしまうだけでは、精神分析の仕事はできない。分析家はいつかは、分析家自身の視点から事態を眺め、そうした患者の世界を理解することができなければならない。そうした理解の結果、分析家は何かを伝える。そうして伝えられる患者理解の言葉、物語、すなわち解釈というものに患者は癒される部分があるが、おそらくそれだけではない。分裂から一瞬立ち直って自分を別の視点から見ることができる。オ生きた人間としての分析家自身のあり方こそが、患者に希望を与えてもいるのだろう。自分はこころのなかの誰かにただ無自覚にふりまわされ、突き動かされていなくてもいいのかもしれない。ひとりのパーソナルな欲望と思考をもつひとりの人間、自律的な存在でありうるかもしれ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
６０分で２５／４０点を突破せよ！

ないのだ。

（藤山直樹『落語の国の精神分析』）

〔注〕○根多――「種（たね）」を逆さ読みにした語。
○くすぐり――本筋と直接関係なく挿入される諧謔（かいぎゃく）。
○自我と超自我とエス――フロイト（Sigmund Freud　一八五六～一九三九）によって精神分析に導入された、自己に関する概念。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈠「このこころを凍らせるような孤独」（傍線部ア）とはどういうことか、説明せよ。

㈡「落語家の自己はたがいに他者性を帯びた何人もの他者たちによって占められ、分裂する」（傍線部イ）とはどういうことか、説明せよ。

㈢「ひとまとまりの「私」というある種の錯覚」（傍線部ウ）とはどういうことか、説明せよ。

㈣「精神分析家の仕事も実は分裂に彩られている」（傍線部エ）とはどういうことか、説明せよ。

㈤「生きた人間としての分析家自身のあり方こそが、患者に希望を与えてもいる」（傍線部オ）とあるが、なぜそういえるのか、落語家との共通性にふれながら一〇〇字以上一二〇字以内で説明せよ（句読点も一字と数える）。

㈥傍線部a、b、c、d、eのカタカナに相当する漢字を楷書で書け。

a　カセ（いで）　b　ナグサ（め）　c　オビヤ（かされる）　d　ジョウショ　e　ケイキ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈠	㈡	㈢	㈣

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈥

a

b

c

d

e

㈤

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
３０分で１２／２０点を突破せよ！

第九講　過去問実践演習　２０１５年第四問

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

私はここ十数年南房総と東京の間を行ったり来たりしているのだが、南房総の山中の家には毎年天井裏で子猫を産む多産猫がいる。人間の年齢に換算すればすでに六十歳くらいになるのだがいまだに産み続けているのである。さすがに一回に産む数は少なくなっているが、私の知る限りかれこれ総計四、五十匹は産んでいるのではなかろうか。猫の子というよりまるでメンタイコのようである。

そういった子猫たちは生まれてからどうなったかというと、このあたりの猫はまだ野生の掟（おきて）や本能のようなものが残っていて、ある一定の時期が来ると、とつぜん親が子供が甘えるのを拒否しはじめる。それでもまだ猫なで声で体をすりよせてきたりすると、威嚇してときには手でひっぱたく。そのような過程を経て徐々に子は親のもとを離れなければならないのだという自覚が生まれる。

親から拒絶されて行き場のなくなった直後の子猫というものは不安な

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

心許(こころもと)ない表情を浮かべ、痛々しさを禁じえないが、これがいざ自立を決心したとき、その表情が一変するのに驚かされる。徐々にではなくある日急変するのである。目つきも姿勢も急に大人っぽくなって、その視線が内にでなく外に向けられはじめる。それから何日かのちのこと、不意に姿を消している。帰ってくることはまずない。

一体それが何処(どこ)に行ったのか、私はしばしば対面する山影を見ながらそのありかを想像してみるのだが、こころ寂しい半面[ア]なにか悠久の安堵(あんど)感のようなものに打たれる。見事な親離れだと思う。親も見事であれば子も見事である。子離れ、親離れのうまくいかない人間に見せてやりたいくらいだ。

かえりみるに、私はそういった健気(けなげ)な猫たちの姿をすでに何十と見てきているわけだが、それらの猫に餌をやったという経験は一度しかない。釣ってきた魚をつい与えてしまい、その猫が餌づいてしまったのである。しかしその猫も野生の血が居残っていると見え、ある年の春不意に姿を消した。それ以降私は野良(のら)猫には餌をやらないことにしている。それはこれらの猫は都会の猫と違って自然に一体化したかたちで彼らの世界で自立していると思っているからだ。自分の気まぐれと楽しみで猫の世界に介入することによってそのような猫の生き方のシステムが変形していくことがあるとす

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
３０分で１２／２０点を突破せよ！

れば、それは避けなければならないということがよくわかったのである。

ところが私は再びへまをした。（イ）<u>死ぬべき猫を生かしてしまったのだ。</u>二年前の春のことである。すでに生まれて一年になる四匹の子猫のうちの一匹が死にそうになったときのことである。

遅咲きの水仙がずいぶん咲いたので、それを親戚に送ろうと思い、刈り取って玄関わきの金盥（かなだらい）に生かしていた。二、三百本もの束の大きなやつだ。

朝刈り取り、昼になにげなく窓から花の束に目をやったとき、一匹の野良猫の子が盥に手をかけて一心にその水を飲んでいる姿が見えた。その子猫は遺伝のせいか外見的にはあきらかに病気持ちである。体が痩せ細っていて背骨や肋骨（ろっこつ）が浮き出ている。汚い話だがいつもよだれを垂らし、口の回りの毛は固くこびりついたようになっている。右手に血豆のように腫れた湿瘡（しっそう）が出来ており、判コのように膿（うみ）まじりの血の手形をあちこちにつけながら歩き、これが一向に治る気配がない。口の中にも湿瘡ができており、食べ物がそれに触れると痛がる。近くに寄るとかなり強烈な腐ったような臭いがする。一年も生きているのが不思議なくらい、この子猫はあらゆる病気を抱え込んでいるように見えた。

しかしそれも宿命であり、野生の掟にしたがってこの猫は短い寿命を与えられているわけだから、私がそれに手を貸すことはよくないことだと思

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

い、そのまま生きるように生きさせておいた。

この猫が盥の水を飲んでいたわけだが、飲んでから、四、五分もたったときのことである。七転八倒で悶(もだ)えはじめた。そしてよだれまじりの大量の嘔吐(おうと)物を吐き苦しそうに唸(うな)りはじめる。はじめ私は猫に一体なにが起こったのかさっぱりわからなかった。一瞬、死期がおとずれたのかなと思った。しかしそれにしては壮絶である。

そのとき私の脳裏にさきほどこの猫が盥の水をずいぶん飲んでいた、あの情景が過(よぎ)ったのである。ひょっとしたら、と思う。あの水は有毒なものに変化していたのかも知れないと。球根植物にはよくアルカロイド系の毒素が含まれていることがあるものだ。以前保険金殺人の疑惑のかかったある事件もトリカブトという植物が使用されたという推測がなされたし、また秋の彼岸花などにもこの毒がある。水仙に毒があるということは聞いたことがないが、ひょっとしたらこの植物もアルカロイド系の毒を含んでいるのではないか。私は猫の苦しむ様子をみながら、そのようなことを思いめぐらし、間接的にその苦しみを私が与えたような気持ちに陥った。

そのような経緯で私はつい猫を家に入れてしまったのである。猫がぐったりしたとき、私は洗面器の中に布を敷き、それを抱いて寝かせた。せめて虫の息の間だけでも快適にさせてやりたかったのである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
３０分で１２／２０点を突破せよ！

ところがこの病猫、元来病気持ちであるがゆえにしぶといというか、再び息を吹き返したのである。二日三日はふらふらしていたが、四、五日目にはもとの姿に戻った。そしてそのまま家に居着いてしまった。立ち直ったときにまた外に出せばよかったのだが、このそんなに寿命の長そうではない病猫につい同情してしまったのが運のつきである。可愛い動物も人の気持ちを虜（とりこ）にするものだが、こういった欠陥のある動物もべつの意味で人の気持ちを拘束してしまうもののようだ。ときに人がやってきたとき、家の中にあまり芳しくない臭気を漂わせながら、あたりかまわずよだれを垂らし、手からは血膿の判コを押してまわるこの痩せ猫を見てよくこんなものの面倒をみているなぁとだいたい感心する。その感心の中にはときに私のボランティア精神に対する共感の意味も含まれているわけだが、ゥ私はそれはそういうことではない、と薄々感じはじめていた。

人間に限らず、その他の動物から、そしてあるいは植物にいたるまで、およそ生き物というものはエゴイズムに支えられて生きながらえていると言っても過言ではない。無償の愛、という美しい言葉があるが、それは言葉のみの抽象的な概念であって、そこに生き物の関係性が存在するかぎり完璧な無償というものはなかなか存在しがたい。

以前アメリカのポトマック川で航空機が墜落したとき、ヘリコプターか

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

ら降ろされた命綱をつぎつぎと他の人に渡して自分は溺死してしまったという人がいた。この人が素晴らしい心の持ち主であることは疑いようがない。本音優先の東洋人の中ではなかなか起こらない出来事である。彼はほとんど無償で自分の命を他者に捧げたわけだが、敬虔（けいけん）なクリスティアンである彼が、彼が習ってきた教義の中に濃厚にある他者のために犠牲心を払うということによる〝冥利（みょうり）〟にまったく触れなかったとは考えにくい。

そういうものと比較するのは少しレベルが違うが、私が病気の猫を飼いつづけたのは他人が思うような自分に慈悲心があるからではなく、その猫の存在によって人間であるなら誰の中にも眠っている慈悲の気持ちが引き出されたからである。つまり逆に考えればその猫は自らが病むという犠牲を払って、他者に慈悲の心を与えてくれたということだ。誰が見ても汚く臭いという生き物が、他のどの生き物よりも可愛（かわい）いと思いはじめるのは、その二者の関係の中にそういった輻輳（ふくそう）した契約が結ばれるからである。

この猫は、それから二年間を生き、つい最近、眠るように息をひきとった。あの体では長く生きた方であると思う。

死ぬと同時に、あの肉の腐りかけたような臭気が消えたのだが、誰もが不快だと思うその臭気がなくなったとき、エ不意にその臭いのことが愛（いと）しく思い出されるから不思議なものである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（藤原新也「ある風来猫の短い生涯について」）

――

㈠「なにか悠久の安堵感のようなものに打たれる」（傍線部ア）とあるが、どういうことか、説明せよ。

㈡「死ぬべき猫を生かしてしまったのだ」（傍線部イ）とあるが、どういうことか、説明せよ。

㈢「私はそれはそういうことではない、と薄々感じはじめていた」（傍線部ウ）とあるが、どういうことか、説明せよ。

㈣「不意にその臭いのことが愛しく思い出されるから不思議なものである」（傍線部エ）とあるが、どういうことか、説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈣		㈢		㈡		㈠	

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
６０分で２５／４０点を突破せよ！

第十講　過去問実践演習　２０１５年第一問

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

昨日机に向かっていた自分と現在机に向かっている自分、両者の関係はどうなっているのだろう。身体的にも意味的にも、昨日の自分と現在の自分とが微妙に違っていることは確かである。しかし、その違いを認識できるのは、その違いにもかかわらず成立している不変の自分なるものがあるからではないのか。こういった発想は根強く、誘惑的でさえある。だが、ア このような見方は出発点のところで誤っているのである。このプロセスを時間的に分断し、対比することで、われわれは過去の自分と現在の自分とを別々のものとして立て、それから両者の同一性を考えるという道に迷いこんでしまう。過去の自分と現在の自分という二つの自分があるのではない。あるのは、今働いている自分ただ一つである。生成しているところにしか自分はない。

過去の自分は、身体として意味として現在の自分のなかに統合されており、その限りで過去の自分は現在の自分と重なることになる。身体として

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

統合されているとは、たとえば、運動能力に明らかである。最初はなかなかできないことでも、訓練を通じてわれわれはそれができるようになる。そして、いったん可能となると、今度はその能力を当たり前のものとしてわれわれは使用する。また、意味として統合されているとは、われわれが過去の経験を土台として現在の意味づけをなしていることに見られるとおりである。現在の自分が身体的、意味的統合を通じて、結果として過去の自分を回収する。換言すれば、回収されて初めて、過去の自分は「現在の自分の過去」という資格を[a]<u>カクトク</u>できるのである。

　統合が意識されている場合もあれば、意識されていない場合もある。したがって、現在の自分へと回収されている過去の自分が、それとして常に認識されているとは限らない。むしろ、忘れられていることの方が多いと思われる。二十年前の今日のことが記憶にないからといって、それ以前の自分とそれ以後の自分とが断絶しているということにはならない。第一、二十年前から今日現在までのことを、とぎれることなく記憶していること自体不可能である。重要なのは、何を忘れ、何を覚えているかである。つまり、自分の出会ったさまざまな経験を、どのようなものとして引き受け、意味づけているかである。そして、そのような過去への姿勢を、現在の世界への姿勢として自らの行為を通じて表現するということが、働きかける

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
６０分で２５／４０点を突破せよ！

ということであり、他者からの応答によってその姿勢が新たに組み直されることが、自分の生成である。そしてこの生成の運動において、いわゆる自分の自分らしさというものも現れるのである。

イこの運動を意識的に完全に制御できると考えてはならない。つまり、自分の自分らしさは、自らがそうと判断すべき事柄ではないし、そうあろうと意図して実現できるものでもない。具体的に言えば、自分のことを人格者であるとか、bコウケツな人柄であるとか考えるなら、それはむしろ、自分がそのような在り方からどれほど遠いかを示しているのである。また、人格者となろうとする意識的努力は、それがどれほど真摯なものであれ、いや、真摯なものであればあるほど、どうしてもそこには不自然さが感じられてしまう。ここには、自分の自分らしさは他人によって認められるという逆説が成立する。このことは、とりわけ意識もせずに、まさに自然に為（な）される行為に、その人のその人らしさが紛（まご）う方なく認められるという、日常の経験を考えてみても分かるだろう。

自分とはこういうものであろうと考えている姿と、現実の自分とが一致していることはむしろ稀（まれ）である。それは、現実の自分とはあくまで働きであり、その働きは働きの受け手から判断されうるものだからである。しかし、そうであるならば、自分の自分らしさは他人によって決定されてしま

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

いはしないか。ここが面倒なところである。自分らしさは他人によって認められるのではあるが、決定されるわけではない。自分らしさは生成の運動なのだから、固定的に捉えることはできない。それでも、自分らしさが認められるというのは、自分について他人が抱いていた漠然としたイメージを、一つの具体的行為として自分が現実化するからである。しかし、[ウ]その認められた自分らしさは、すでに生成する自分ではなく、生成する自分の残した足跡でしかない。

　いわゆる他人に認められる自分の自分らしさは、生成する自分という運動を貫く特徴ではありえない。かといって、自分で自分の自分らしさを捉えることもできない。結局、生成する自分の方向性などというものはないのだろうか。

　生成の方向性は生成のなかで自覚される以外にない。ただこの場合、何か自分についての漠然としたイメージが具体化することで、生成の方向性が自覚されるというのではない。というのは、ここで自覚されるのは[c]イゼンとして生成の足跡でしかないからである。生成の方向性は、棒のような方向性ではなく、生成の可能性として自覚されるのである。自分なり、他人なりが抱く自分についてのイメージ、それからどれだけ自由になりうるか。どれだけこれまでの自分を否定し、逸脱できるか。この「……でな

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
６０分で２５／４０点を突破せよ！

い」という虚への志向性が現在生成する自分の可能性であり、方向性である。そして、これはまさに自分が生成する瞬間に、生成した自分を背景に同時に自覚されるのである。

このような可能性のどれかが現実のなかで実現されていくが、それもわれわれの死によって終止符を打たれる。こうして、自分の生成は終わり、後には自分の足跡だけが残される。

だが、本当にそうか。なるほど、自分はもはや生成することはないし、その足跡はわれわれの生誕と死によってはっきりと限られている。しかし、働きはまだ生き生きと活動している。ある人間の死によって、その足跡のもっている運動性も失われるわけではない。つまり、エ残された足跡を辿(たど)る人間には、その足の運びの運動性が感得されるのであり、その意味で足跡は働きをもっているのである。われわれがソクラテスの問答に直面するとき、ソクラテスの力強い働きをまざまざと感じるのではないか。

自分としてのソクラテスは死んでいるが、働きとしてのソクラテスは生きている。生成する自分は死んでいるが、その足跡は生きている。正確に言おう。自分の足跡は他人によって生を与えられる。われわれの働きは徹頭徹尾他人との関係において成立し、他人によって引き出される。そして、自分が生成することを止めてからも、その働きが可能であるとするならば、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

その可能性はこの現在生成している自分に含まれているはずである。そのように、自分の可能性はなかば自分に秘められている。オこの秘められた、可能性の自分に向かうのが、虚への志向性としての自分の方向性でもある。

（池上哲司『傍らにあること―老いと介護の倫理学』）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈠「このような見方は出発点のところで誤っているのである」（傍線部ア）とあるが、なぜそういえるのか、説明せよ。

㈡「この運動を意識的に完全に制御できると考えてはならない」（傍線部イ）とあるが、なぜそういえるのか、説明せよ。

㈢「その認められた自分らしさは、すでに生成する自分ではなく、生成する自分の残した足跡でしかない」（傍線部ウ）とはどういうことか、説明せよ。

㈣「残された足跡を辿る人間には、その足の運びの運動性が感得される」（傍線部エ）とはどういうことか、説明せよ。

㈤「この秘められた、可能性の自分に向かうのが、虚への志向性としての自分の方向性でもある」（傍線部オ）とあるが、どういうことか。本文全体の論旨を踏まえた上で、一〇〇字以上一二〇字以内で説明せよ（句読点も一字と数える）。

㈥ 傍線部a、b、cのカタカナに相当する漢字を楷書で書け。

a　カクトク　　b　コウケツ　　c　イゼン

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(一)	(二)	(三)	(四)

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈤

㈥

a

b

c

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

本講義の参考文献一覧

最難関大学の受験生が一科目に使える時間は本当に限られています。ですから、参考書もできるだけ厳選しておくべきでしょう。受験生には次の本を薦めます。

受験生用

「入門！論理学」（中公新書）野矢茂樹
「論理トレーニング１０１題」（産業図書）野矢茂樹
「東大現代文でロジカルシンキングを鍛える」（ＫＡＤＯＫＡＷＡ）柳生好之

より発展的な学習へ（合格後に読んでみてください）

私の講義を聞いて、「もっと論理学について知りたい」と思う方もいると思います（実際に授業ではそういう声を聞きます）。この要望に対して私は「まずは大学に合格しなさい」ということにしています。最難関大学の受験科目は多岐にわたり、その学習範囲は膨大です。ですから、私は最短で合格できるルートを示すようにしています。

ただし、本来の勉強の醍醐味は「知れば知るほど、さらに知りたくなる」ということだと思います。そこで私は「大学に入学したら、こんな本を読んでみたらどうだろう」と提案することにしています。皆さんにもその醍醐味を味わっていただきたいので、「予備校の講義テキストにはない」参考文献一覧をつけておきます。ぜひ、合格後に読んでみてください。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

1、日本語の文法的分析について

「概説　日本語」（朝倉書店）北原保雄
「日本語の文法」（ひつじ書房）　高橋太郎など
「日本語文法入門ハンドブック」（研究社）　加藤重広
「入門　日本語の文法」（アルク）村田水恵
「古典文の構造」（右文書院）中村幸弘、碁石雅利

2、日本語（日常言語）の論理的分析について

a、　理論理解系

「入門！論理学」（中公新書）野矢茂樹
「論理学」（東京大学出版会）野矢茂樹
「本当にわかる論理学」（日本実業出版社）三浦俊彦
「議論のルール」（NHK 出版）福澤一吉
「新装版　集合とはなにか」（講談社ブルーバックス）竹内外史
「日常言語の論理学」（産業図書）オールウド、アンデソン、ダール
「論理学をつくる」（名古屋大学出版会）戸田山和久

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

b、実践論理力養成系

「新版　論理トレーニング」（産業図書）野矢茂樹
「論理トレーニング」（産業図書）野矢茂樹
「論理トレーニング101題」（産業図書）野矢茂樹
「論理のスキルアップ」（春秋社）アン・トムソン
「論理パラドクス」（二見書房）三浦俊彦
「論理サバイバル」（二見書房）三浦俊彦
「論理的思考の技法Ⅰ」（法学書院）鈴木美佐子
「論理的思考の技法Ⅱ」（法学書院）鈴木美佐子
「文章を論理で読み解くためのクリティカル・リーディング」（NHK 出版）福澤一吉
「論理表現のレッスン」（NHK 出版）福澤一吉
「法科大学院適性試験［推論・分析力］解法の論理ブック」（実務教育出版）吉岡友治、阿藤俊一
「判断推理がみるみるわかる！解法の玉手箱　改訂版」（実務教育出版）資格試験研究会
「標準　判断推理　改訂版」（実務教育出版）田辺勉

3、論理学の思想的背景について

「分析哲学入門」（講談社）八木沢敬
「分析哲学の誕生」（勁草書房）日本科学哲学会
「分析哲学講義」（筑摩書房）青山拓央

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「言語哲学」（勁草書房）W.G. ライカン

「ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』を読む」（ちくま学芸文庫）野矢茂樹

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

テキスト解答・解説

※掲載内容について
本書に収録された解答・解説・配点は受験サプリが独自に作成したものです。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　傍線部内容説明問題

1983年　第四問　梅本克己「唯物史観と現代」

要旨

人間の意識の働きには、言語が必要である。言語は人間の意識を規定する、しかもあらかじめ決定的な、人間から離れた存在である。

しかし、言語は本来その意味を受け取る他者との関係を前提としている。したがって、他者によって理解されない言語は、意味をなさない。

従来存在しなかったあたらしい感情や意識は、他者が意味を理解できるあたらしい言葉で表現されなければならない。そして、他の人間たちのためにあってこそ私自身のためにあるあたらしい現実的な意識がつくり出されてゆかねばならない。

解答

㈠
人間の意識を規定するために必要で、しかもあらかじめ決定している言語は、人間から離れたものとして存在しているということ。

解答ポイント

① 人間の意識を規定するために必要
② あらかじめ決定している
③ 人間から離れたもの

㈡
他者が意味を理解できるあたらしい言葉を通して、他者と連帯するあたらしい現実的な意識がつくり出されてゆかねばならないということ。

解答ポイント

① 他者が意味を理解できるあたらしい言葉
② 他者と連帯するあたらしい現実的な意識

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

解説

㈠ 傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。まず傍線部を分析すると、「この『存在』」という指示語、筆者特有の用語と、「間接的」という比喩表現がわかりにくい。よって、これらのポイントを説明するための根拠を、本文中に求める。

まず、「この『存在』」であるが、第一段落三文目四文目に「その点では言語もまた私たちの意識を規定する『存在』である。しかも決定的な『存在』である」と、説明がある。主語は「言語」であるから、「言語」の説明をさらに一文目に求めると「私たちが突然いっさいの言葉というものを忘れてしまったら、私たちの意識はタガの外れた桶のようなもので」とあることから、①「意識を規定するために必要な言語」であることがわかる。ただし、現段階では「決定的」の意味はわからないので、後に根拠を求める。

次に、「間接的」であるが、第二段落以降に「間接性」の説明が二種類あることに注意してもらいたい。一つ目は第三段落二文目三文目にある「その意味をうけとる他の人間の実在を前提しない言語というものはない。間接性の導入、——それが人間的生産の出発点だが、その間接性をどのように発展させるにせよ、他の人間のためにあってこそ自分のためにあるというその本来の意味を喪失した間接性は、もはや間接性そのものとして意味をなさない。」という「間接性」である。もう一つは同段落五文目の「言語は言語特有の間接性の中で独り歩きもするが」という「間接性」である。今回の傍線部の「間接的」は、後者の方である。なぜなら、前者の方は傍線部と「しかし（逆接）」でつながっているからである。それにひきかえ、後者の「間接性」は、「言語は言語特有の間接性の中で独り歩きもするが」というように、「が（逆接）」の前に置かれている。以上より、「間接的」の意味は③「人間から離れて存在（独り歩き）する」ということになる。

最後に保留していた「決定的」の意味であるが、人間から離れて、人間の意識を規定する言語は、②あらかじめ決定している（＝人間が変えることができない）という意味になる（前者の間接性と反対になる）。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈡ 傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすくする問題である。傍線部を分析すると、「その『間接性』」という指

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

示語、筆者特有の用語と「あたらしい現実」という筆者特有の用語がポイントであることがわかる。よって、以上のポイントを説明する根拠を本文中に求める。

まず、「その『間接性』」であるが、第四段落七文目に「その言葉(＝あたらしい言葉)自身、自らがあたらしい生きた『間接性』である」とあり、「生きた『間接性』」であるとわかる。「生きた『間接性』」とは、第三段落二文目三文目にある「その意味をうけとる他の人間の実在を前提しない言語というものはない。間接性の導入、――それが人間的生産の出発点だが、その間接性をどのように発展させるにせよ、他の人間のためにあってこそ自分のためにあるというその本来の意味を喪失した間接性は、もはや間接性そのものとして意味をなさない」という「間接性」である。これをまとめると「間接性」とは、①「その意味をうけとる他の人間の実在を前提とする」もので、「他の人間のためにあってこそ自分のためにあるというその本来の意味」を持つものである。

次に、「あたらしい現実」であるが、「あたらしい言葉」によって作られる、②「他の人間たちのためにあってこそ私自身のためにあるあたらしい現実的な意識」(第四段落九文目)である。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　傍線部理由説明問題

２０１０年　第四問　小野十三郎「想像力」

要旨

詩人の実感を人間にとって普遍的なものにするためには、生活体験による実感だけではなく想像力がはたらく必要がある。

しかし、読者の側にも想像力がはたらき、詩人が意図していなかった作用を読者にもたらすこともある。現代の詩人はその読者の想像力の作用を見あやまっているように思う。

想像力は直接経験したことがらを超越するが、その生活体験から生じる実感は現実生活におけるものでしかない。想像力は現実生活の質的な核に限定されているのである。

解答

㈠
詩人の実感が普遍的なものになるためには想像力が必要だが、生活体験による感動のみを表現した詩には想像力がはたらいていないから。

解答ポイント

① 詩人の実感が普遍的なものになるためには想像力が必要
② 生活体験による感動のみを表現した詩には想像力がはたらいていない

㈡
現代詩を理解できないという読者は、詩を理解する想像力があるがゆえに一見創造的な詩の内質を平凡な感情だと看破しているから。

解答ポイント

① 現代詩を理解できないという読者
② 詩を理解する想像力があるがゆえに
③ 一見創造的な詩の内質を平凡な感情だと看破している

㈢
人間の想像力は直接経験したことがらを超越するが、想像力の及ぶ範囲は現実の生活経験の質的な核により限定されてい

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

るから。（半解）

㈢

想像力は直接経験していない事柄からある実感を得るものであり、事柄と実感の因果関係は現実生活に普遍的にあるものに限られるから。（別解）

解答ポイント

① 人間の想像力は直接経験した事柄を超越する
（想像力は直接経験していない事柄からある実感を得る）

② 想像力の及ぶ範囲は現実の生活経験の質的な核により限定されている
（事柄と実感の因果関係は現実生活に普遍的にあるものに限られる）

解説

㈠ **傍線部理由説明問題**

傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。傍線部を分析すると、「詩人なんてものは」という部分と、「人間にとって、あってもなくても一向にさしつかえのないつまらないものになるだろう」という部分の間に飛躍がある。よって、その飛躍を埋める論証となる部分を本文中に求める。

まず、「詩人なんてもの」の説明として、第一段落一文目に②「もし詩人が自ら体験し、生活してきた事からだけ感動をひきだし、それを言葉に移すことに終始していたならば」という部分がある。これは傍線部に対する条件になっていることから、この部分が根拠となるということがわかる。

しかし、これだけでは不十分である。さらに、「詩人」の説明を求めると、第一段落二文目②「詩が私たちに必要なのは、そこに詩人の想像力というものがはたらいているからであって、それが無いと、謂うところの実感をも普遍的なものにすることはできない」とある。これをまとめると「詩人の想像力がはたらいていないならば、詩人のいう実感を普遍的なものにすることはできない」ということである。さらに言い換えると、①「詩人の実感を普遍的なものにする（＝人間にとって意味あるものにする）ためには、詩人の想像力が必要である」ということである。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈡ **傍線部理由説明問題**

傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。傍線部を含

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

む一文を分析すると、「現代詩は難解だなどと云って、詩を理解する力のないことを、さも謙虚そうに告白している人」という部分と、傍線部「まったく嘘をついているように私に思える」という部分の間に飛躍がある。よって、この飛躍を埋める論証となる部分を本文中に求める。

　まず、「現代詩は難解だなどと云って、詩を理解する力のないことを、さも謙虚そうに告白している人」の説明として、第一段落八文目に「それによって、彼らがすべての作品の質を習慣的に選別し、自らの立場においてそれを受け入れたり、突き放したりしている、この彼らの中にある想像力に対する自信を喪失してしまった形跡が見えない」とある。つまり、①「現代詩は難解だなどと云って、詩を理解する力のないことを、さも謙虚そうに告白している人」は②「想像力がある」のである。

　しかしこれだけでは不十分である。その「想像力」があるがゆえに、同段落七文目③「内質は日常次元の平凡な生活感情の表現にすぎないことを、たちどころに看破されている」のである。よって、「現代詩は難解（理解できない）」、つまり「一見豊富な想像力と、多彩なイメージによって構築されているように見える作品」の「良さがわからない（普通に見えてしまう）」となる。

　以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈢　傍線部理由説明問題

　傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。傍線部を含む一文を分析すると、「強烈な想像力」という部分と、傍線部「その現実の中での経験の質的な核を破壊することはできない」という部分の間に飛躍がある。よって、この飛躍を埋める論証となる部分を本文中に求める。

　まず、「強烈な想像力」とは、第三段落三文目にあるように①「直接経験したことがらを超越する」、「経験していないことをも想像出来る力」であることがわかる。

　しかし、これだけでは不十分である。㈠で捉えたように「想像力」とは①「自ら体験し、生活してきていない事」からも「実感」を引き出すものである。しかし、そのことによって「普遍的な実感」となるはずであるから、人間（読者）の誰もがその「ことがら」から共通する「実感」を引き出すはずである。すると、②「ことがら」と「実感」は「普遍的に認められる因果関係」で繋がっていなければならない。これが「現実の中での経験の質的な核」である。

　以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　論理構造分析①「否定」「差異」「類似」

2011年　第一問　桑子敏雄『風景のなかの環境哲学』

要旨

河川は人間の身体に応じて体験されるものである。その空間が固定化された概念によって再編されることにより、都市空間と同じように既知の概念によって管理されることになる。しかし、それは川の本質に逆らったものである。河川は庭園と同じように、竣工の時点から育成されていく。そして、時間の経過とともに、人びとがそれぞれの履歴を積み上げていくものである。

解説

(一)

個々の身体に応じて多様な体験をもたらす自然空間が、固定化された概念に基づいて体験を画一化する人工空間になるということ。

解答ポイント

① X＝個々の身体に応じて多様な体験をもたらす自然空間
② Y＝固定化された概念に基づいて体験を画一化する人工空間
③ XがYになる（置き換えられる）

(二)

河川も庭園も人工的な工事や植栽の終わりを起点として、自然の力と人間の手助けによって時間をかけて個性的に育つ点で同じだから。

解答ポイント

① 人工的な工事や植栽の終わりを起点として
② 自然の力と人間の手助けによって時間をかけて個性的に育つ
③ 河川も庭園も①②であるという点で同じ

(三)

河川の空間は時間がたつにつれ、共有される自然の営みとともに、人びととの自由な想像力による固有の経験も積み重ねていくということ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

解答ポイント

① B＝共有される自然の営み
② A＝人びとの自由な想像力による固有の経験
③ BとともにAも積み重ねる
（AとBの順序はどちらでも良い）

解説

(一) 傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を含む一文を分析すると、「それ」という指示語、「身体空間」という筆者特有の用語、「概念空間」という筆者特有の用語がポイントであることがわかる。よって、これらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず、「それ」であるが、第五段落四文目の「この排除」を指している。そして「この排除」は同段落三文目「それ（＝水辺に下りること、水辺を歩くこと）以外のことをする可能性は排除されてしまう」ことである。

次に、「身体空間」をA、「概念空間」をBと置いて、それぞれの説明を求める。すると、第五段落四文目に③「川という本来自然のもの（＝X）が概念という人工のもの（＝Y）によって置換される」とあることから、①A「身体空間」はX「自然のもの」、②B「概念空間」はY「人工のもの」であることがわかる。そして、②B「概念空間」は先ほど捉えたように、「それ（＝水辺に下りること、水辺を歩くこと）以外のことをする可能性が排除」されたものである。それに対し、①A「身体空間」は第四段落六文目にあるようにX「体験の多様性の可能性」があると考えられる。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

(二) 傍線部理由説明問題

傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。傍線部を分析すると、「それは」という部分と、「庭園に類似している」という部分の間に飛躍がある。よって、その飛躍を埋める説明を本文中に求める。

まず、「それは」の指示内容であるが、「河川」である。そして、「河川」の説明は第九段落七文目に「河川工事の竣工は、河川の空間が育つ起点となる」とある。

ただし、これだけでは不十分である。「庭園」との類似点を説明する必要がある。その説明は、第九段落九文目に①「樹木の植栽は、庭の完成ではなく、育成の起点だからである」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

とある。「河川の竣工」も「庭園の樹木の植栽」も「完成ではなく、育成の起点」であるという点で③似ていることがわかる。

あとはどのように育つかである。次の第十段落の内容を踏まえ、両者とも②「時間をかけて」「自然の力」と「人間の手助け」によって「個性的に」育つということを解答に加える。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

三　傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「履歴」という筆者特有の用語がポイントであるとわかる。よって、このポイントを説明する根拠を本文中に求める。

まず、「履歴」と反対である「概念」の説明の中にヒントを求める。すると、第十一段落六文目に「概念的コントロールによる意味付与」は「風景に接したひとが自由な想像力のもとでそれぞれの個性的な経験を積み、固有の履歴を積み上げることを阻害してしまう」とあることから、反対の「履歴」は「風景に接したひとが自由な想像力のもとでそれぞれの個性的な経験を積み、固有の履歴を積み上げる」のだとわかる。

さらに、第十二段落三文目以降にも「履歴」の説明がある。「履歴は概念のコントロールとは違って、一握りの人間の頭脳のなかに存在するものではない。多くの人びとの経験の蓄積を含み、さらに自然の営みをも含む。こうして積み上げられた空間の履歴が、その空間に住み、またそこを訪れるそれぞれのひとが固有の履歴を構築する基盤となる」という「履歴」の説明も捉える。

そして「多くの人びとの経験の蓄積を含み、さらに自然の営みをも含む」とあるように、「履歴」は②A「人びと」の「履歴」と①B「自然の営み」の「履歴」があるとわかる。それを詳しく説明しているのが、第十三段落三文目「その人の経験の積み重ね、つまり、そのひとの履歴（＝A）と空間に蓄積された空間の履歴（＝B）との交差」であり、同段落五文目「その風景は人びとに共有される空間の風景（＝B）であるとともに、そのひと固有の風景（＝A）でもある」である。

以上のように、③「A＝そのひと固有の履歴」と「B＝自然の履歴」の二つがあることを踏まえて、解答を構成するとよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　論理構造分析②「条件法」「連言」

1995年　第一問　市村弘正「小さなものの諸形態」

要旨

現代人は物事との結びつきが希薄になり、出来事を経験とせずに忘却してしまう傾性がある。その傾性に抵抗するためには、過去に対して畏敬の念を持ち、現在の視点から再考察することが必要になる。

なぜ現代人は出来事を忘却してしまうのか。不快な抵抗が存在することで、人間は多くを学ぶ。ところが、現代人は不快な抵抗を排除してしまう。よって、現代人は物事を忘れやすくなるのである。

したがって、現代人は過去から未来を考えるより前に、現在から過去を考えるべきである。

解答

㈠

過去の出来事を経験とせずに忘却していく現代的傾性の典型例。

解答ポイント

① 過去の出来事を経験とせずに忘却していく現代的傾性
② 典型例

㈡

過去の物事に対して畏敬の念を持ち、その可能性を再認識すること。

解答ポイント

① 過去の物事に対して
② 畏敬の念を持ち
③ その可能性を再認識する

㈢

現代人は過去を忘却し、未来も推測できないので、過去の影響を残す現在の感覚的経験を考察することで、過去を再認識するしかないから。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

解答ポイント

① 現代人は過去を忘却し
② 未来も推測できない
③ 過去の影響を残す現在の感覚的経験を考察することで、過去を再認識するしかない

解説

㈠ 傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「その」という指示語、「端的な現れ」という筆者特有の用語がポイントであることがわかる。よって、以上のポイントを説明する根拠を本文中に求める。

まず「その」という指示語であるが、第一段落五文目の「現代の私たちを貫く『自然過程』は、見かけのどのような装いにもかかわらず、衰弱であり減退である」の「自然過程」を指している。ただし、「自然過程」だけではまだわかりにくいので、さらに説明を求める。すると同段落一文目「そこでの出来事の生成と着床のあり方は、経験におけるそれとは正反対である」や三文目「時間とともに結晶するのではなく、反対に一つ一つその輪郭と形状と特性とを曖昧にし消失していく」とあるように、①「出来事を経験とするのではなく、忘却していく」のが現代の「自然過程」であるとわかる。

次に「端的な現れ」であるが、傍線部を含む一文の主語は「私たちが何を失くし何を忘れ去ったのかさえ判然としない『忘却の忘却』」であり、それは「現代の私たちを貫く『自然過程』」の一部分であるから、「端的な現れ」とは②「典型例」だと考える。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈡ 傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「鎮魂的認識」と「物質的想像力」という筆者特有の用語がポイントであるとわかる。よって、これらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず「鎮魂的認識」であるが、第二段落一文目に①②「喪失したものに対する鎮魂と消滅しつつあるものに対する敬意とを含むような認識」とある。

次に「物質的想像力」であるが、第二段落二文目に①③「失われて過去に深く埋もれたままの物事に、それが待ちうけて

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

いるであろう新たな眼差しを注ぎ、現に消滅しつつある物事には、それが充分にかけがえのない『働き』をなしとげたのかを見届け」ることである。

以上のポイントをコンパクトな言葉でまとめて、解答を構成するとよい。

㈢　傍線部理由説明問題

傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。傍線部を含む一文を分析すると、「『もはやない』を成り立たしめ、忘却の忘却からそれを救い出すためにも」という部分と、「私たちは『まだなお』に対してこそ注意深くなければならない」という部分の間に飛躍がある。よって、この飛躍を埋める論証となる部分を本文中に求める。

「『もはやない』を成り立たしめ、忘却の忘却からそれを救い出すためにも」の説明であるが、㈠で①「現代は過去の出来事を忘却する傾向がある」ということを捉えている。また、「そうであるとすれば」という条件も踏まえる。「そう」の指示内容は、直前の「つまり、『もはやない』はそれとして成立しえず、したがって『まだない』を着床させることができずに、いわば繰りかえし流産してしまうのではないか」という一文である。②「未来」から「過去」を推測することができるかというと、そもそも「未来」は「過去」から推測するものであるから、それは不可能である。であれば、第五段落六文目にある「ホッブスの『なおも残る』映像すなわち残像」から、過去を捉えるしかない。そして「ホッブスの『なおも残る』映像すなわち残像」とは「その忘却した後に『なおも残る』感覚的な経験」である。③「その忘却した後に『なおも残る』感覚的な経験」しか、「過去の出来事」を捉える手がかりはないので、「私たちは『まだなお』に対してこそ注意深くなければならない」のである。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　論理構造分析③「選言」「逆説」「一般化」

2007年　第四問　清岡卓行『手の変幻』

要旨

作者が作品に千万無量の思いを密かに込めたとしても、通常その想いの重みは鑑賞者には伝わらない。しかし、その想いが例外的に伝わる場合がある。レンブラントの『ユダヤの花嫁』に密かに込められた思いは、いつの時代の人間にも共通する普遍的なものであるがゆえに、予備知識がなくても鑑賞者に伝わる。

この『ユダヤの花嫁』にかたどられているのは、結婚に対する苛酷な現実と、それでも夫婦の愛を誓うことで幸福な時間を継続したいという理想である。お互いに誠実を誓い合うということが結婚という形式そのものであるような結婚は、いつの時代においても美しく、魅惑されるものである。

解答

㈠
作者が芸術作品の細部に密かにこめた、人生に対する千万無量の思いを、鑑賞者が何の予備知識にもよらずに心で感じること。

解答ポイント

① 作者が芸術作品の細部（詩や絵画の細部）に密かにこめた、人生に対する千万無量の思い
② 鑑賞者が何の予備知識にもよらずに心で感じる

㈡
作者が作品に密かにこめた特殊で個人的な感慨が、古代から未来までの人間に共通する普遍的な感慨になっているということ。

解答ポイント

① 作者が作品に密かにこめた特殊で個人的な感慨
② 古代から未来までの人間に共通する普遍的な感慨

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈢
苛酷な現実によって悲惨なものになる危険性がありながらも、人間はこれからも夫婦愛を理想として結婚したいと望み続けること。

解答ポイント

① 過酷な現実によって悲惨なものになる危険性
② 人間はこれからも夫婦愛を理想として結婚したいと望み続ける

解説

㈠ 傍線部説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「その秘密」という指示語、「直感的な理解」という筆者特有の表現がポイントであることがわかる。以上のポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず、「その秘密」であるが、第一段落一文目に「そのように埋蔵されたもの」とある。さらに指示内容を求めると「詩におけるさりげない一つの言葉、あるいは絵画におけるさりげない一つのタッチ、そうしたものに作者の千万無量の思いが密かにこめられた」とあることから、①「作者が芸術作品の細部に密かにこめた千万無量の思い」であることがわかる。

次に「直観的な理解」であるが、「鑑賞者の心に伝わること」である。ただし、「直観」の説明としては不十分である。さらに根拠を求めると、例外的に「直観的な理解」が起こる場合の説明をしている第三段落四文目に、「そうした予備知識はなくてもいい」とあることから、②「何の予備知識にもよらずに鑑賞者が心で感じること」と説明するとよい。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈡ 傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を含む一文を分析すると、「この絵画における永遠の現在の感慨」という比喩表現、「見知らぬ古代におけるそうした場合の古い情緒も」「見知らぬ未来におけるそうした場合の新しい情緒も」「ひとしく奥深いところで溶けあっているような感じがする」という比喩表現がポイントであることがわかる。よって、以上のポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず「この絵画における永遠の現在の感慨」であるが、第

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三段落六文目に①「筆触の一つ一つの裏がわに潜んでいる特殊で個人的な感慨」とある。これは㈠で解答した「作者が密かにこめた特殊で個人的な感慨」である。

　次に、永遠の現在の中に過去も未来も「溶けあっている」という比喩表現は、第三段落六文目の②「おおらかな全体的調和をかもしだし、素晴らしい普遍性にまで高まって行く」ということを表している。「特殊で個人的な感慨」が何の予備知識にもよらずに鑑賞者の心に伝わるのは、それが実は「普遍的な感慨」だからである。

　以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈢　傍線部内容説明問題

　傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を含む一文を分析すると、「この絵画にかたどられようとしている理想的な美しさ」という筆者特有の表現、「人間が未来にわたってさらに執拗に何回となく繰返す希望」という筆者特有の表現がポイントであることがわかる。よって、以上のポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

　まず「この絵画にかたどられようとしている理想的な美しさ」は、第五段落二文目の「暗くさびしい現実を背景として、新しい夫婦愛の高潮し均衡する、いわばこよなく危うい姿」である。ただし、これではまだわかりにくいので、さらに説明を求める。すると、第六段落二文目に①「苛酷な現実によって悲惨なものにまで転落する危険性が充分にある」というのが「危うい」の意味であることがわかる。

　ただし、これだけでは「理想的な美しさ」にはならない。「新しい夫婦愛の高潮し均衡する」という部分の説明が必要である。それが、傍線部「人間が未来にわたってさらに執拗に何回となく繰返す希望」である。そして、「夫婦愛が高潮し均衡する」瞬間は、「花嫁になる瞬間」＝「結婚」である。つまり、②人間はさらに繰り返し「結婚」を希望するということである。

　以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　過去問実践演習

2013年　第一問
湯浅博雄「ランボーの詩の翻訳について」

要旨

文学作品が言おうとすることは、表現する方法と切り離してはありえない。したがって、原作の内容を翻訳者の母語表現で言い換えただけの作品は、翻訳ではなく、微妙な表現方法で伝えようとする原作の個性を無視した創作にすぎない。

そこで翻訳者は母語とは異なる原文の言葉づかいを尊重しつつ、原文の内容を達意の母語にするために母語の表現との調和を目指し試行錯誤する。そして、原文と母語との果てしない対話である翻訳は、母語の枠組みや規範を超えた新たな表現の可能性に開かれている。

そのような翻訳は、大きなパースペクティブにおいて見ると、諸々の言語や文化の複数性を受け止め、新たな共通理解の可能性を探る異文化理解の営みにつながる。

解答　（40点）

㈠（5点）

翻訳者は作品の内容を伝えるべきだが、内容を伝えるためには、内容がそれを表現する方法と一体化して作用する必要があるから。

解答ポイント

① 翻訳者は原作の内容を伝えるべき（2点）
② 内容を伝えるためには、内容がそれを表現する方法と一体化して作用する必要がある（3点）

㈡（5点）

原作の内容を翻訳者の母語で言い換えたつもりの作品は、独自の表現法で伝えようとする原作の微妙な個性を無視した創作だということ。

解答ポイント

① 原作の内容を翻訳者の母語で言い換えたつもりの作品（2点）
② 独自の表現法で伝えようとする原作の微妙な個性を無視した創作だ（3点）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈢（5点）

母語とは異なる原文の言葉づかいを尊重しつつ、原文の内容を達意の母語にするために母語の表現との調和を目指し試行錯誤すること。

解答ポイント

① 母語とは異なる原文の言葉づかいを尊重（2点）
② 原文の内容を達意の母語にする（2点）
③ 母語の表現との調和を目指し試行錯誤する（1点）

㈣（5点）

原文の言葉づかいを尊重しつつ母語で表現する調和は実現されないので、翻訳は原語や母語の枠組みや規範を超えた表現になりうるから。

解答ポイント

① 原文の言葉づかいを尊重しつつ母語で表現する調和は実現されない（2点）
② 翻訳は母語の枠組みや規範を超えた表現になりうる（3点）

㈤（10点）

翻訳とは、原作の内容と形式が一体化しているため、母語とは異なる原文の言葉づかいを尊重しつつも母語表現との調和を目指す終わりなき対話である。それは諸々の言語や文化の複数性を受け止め、新たな共通理解の可能性を探る異文化理解の営みにつながるから。

解答ポイント

① 原作の内容と形式が一体化している　㈠（2点）
② 母語とは異なる原文の言葉づかいを尊重しつつも母語表現と調和させようとする終わりなき対話　㈢（2点）
③ 新たな共通理解の可能性を探る　㈣（2点）
④ 諸々の言語や文化の複数性を受け止め（2点）
⑤ 異文化理解の営みにつながる（2点）

㈥

a 首尾　b 逐語　c 摩擦　d 促　e 示唆（各2点）

解説

㈠ **傍線部理由説明問題**

傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。傍線部を分

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

析すると、「主語」が省略されていることがわかる。その省略された「主語」は第二段落一文目にある「詩人―作家のテクストを翻訳する者」である。この部分と傍線部「もっぱら自分が抜き出し、読み取ったと信じる意味内容・概念の側面に注意を集中してしまうという態度を取ってはならない」という部分の間に飛躍がある。よって、この飛躍を埋める論証となる部分を本文中に求める。

まず「詩人―作家のテクストを翻訳する者」であるが、第三段落にあるように①「読み取った内容を伝える者」である。ただし、これだけでは不十分である。

次に、「伝える」ということの説明を求めると、第一段落五文目に「〈意味され、志向されている内容〉は、それを〈意味する仕方、志向する仕方〉の側面、表現形態の面、意味するかたちの側面と一体化して作用することによってしか存在しないし、コミュニケートされない」とある。つまり、②「コミュニケート（伝達）されるためには、〈意味され、志向されている内容〉は、それを〈意味する仕方、志向する仕方〉の側面、表現形態の面、意味するかたちの側面と一体化して作用することが必要である」ということだ。

よって、「もっぱら自分が抜き出し、読み取ったと信じる意味内容・概念の側面に注意を集中してしまう（＝〈意味する仕方、志向する仕方〉の側面、表現形態の面、意味するかたちの側面を無視する）という態度を取ってはならない」のである。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈡　傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。まず傍線部を含む一文を分析すると、「ある翻訳者が『これがランボーの詩の日本語訳である』として読者に提示する詩」という具体例、「翻訳者による日本語作品」という筆者特有の表現がポイントであることがわかる。よって、以上のポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず、「ある翻訳者が『これがランボーの詩の日本語訳である』として読者に提示する詩」であるが、同文に「少し極端に言えば」とあることから、直前の第四段落の具体例であることがわかる。第四段落一文目の①「自分が抜き出し、読み取った中身・内容を、自らの母語によって適切に言い換えれば首尾よく翻訳できると考え、そう実践」した詩の具体例として、「ある翻訳者が『これがランボーの詩の日本語訳である』として読者に提示する詩」があるとわかる。

次に「翻訳者による日本語作品」であるが、第四段落三文

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目にある②「原文のテクストがその独特な語り口、言い方、表現の仕方によって、きわめて微妙なやり方で告げようとしているなにか」を無視した、翻訳者独自の表現になってしまうということである。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈢　傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「原語」と「母語」という筆者特有の表現、「対話させる」という比喩表現がポイントであることがわかる。よって、これらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず、「原語」であるが、第八段落二文目に①「原文の〈かたち〉の面、すなわち言葉づかい（その語法、シンタックス、用語法、比喩法など）をあたう限り尊重するという課題・任務」とある。

次に、「母語」であるが、第八段落二文目に②「原文が意味しようとするもの、言おうとし、志向し、コミュニケートしようとするものをよく読み取り、それをできるだけこなれた、達意の日本語にするという課題・任務」とある。これらの相反する要請に同時に応えるのが「対話」である。

最後にその「対話」は、第八段落六文目にあるように③「諸々の食い違う志向する仕方を必死になって和合させ、調和させようと努める」ことである。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈣　傍線部理由説明問題

傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。傍線部を分析すると、「翻訳という対話」という部分と、「ある新しい言葉づかい、新しい文体や書き方へと開かれている」という部分の間に飛躍がある。よって、この飛躍を埋める論証となる部分を本文中に求める。

まず「翻訳という対話」であるが、これは㈢で捉えた「食い違う表現法をもつ原語と母語の対話」である。ただし、これだけでは不十分である。

次に、この「対話」は第九段落二文目三文目にあるように「諸々の食い違う志向の仕方が和合し、調和するということは、来るべきものとして約束されることはあっても、けっして到達されることや実現されることはない」ために、①「無限に続く対話、終わりなき対話」となる。すると、「調和・和合」は達成されないわけであるから、「対話」によって②「原語の表現法」でも「母語の表現法」でもない「表現」が生ま

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

れるということになる。これが「ある新しい言葉づかい、新しい文体や書き方」である。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈤　傍線部理由説明問題

傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。ただし、㈤は本文全体の趣旨を踏まえた上で解答しなければならないため、実質要約問題となる。傍線部を分析すると、「翻訳という営為」という部分と、「諸々の言語・文化の差異のあいだを媒介し、可能なかぎり横断していく営み」という部分の間に飛躍がある。よって、この飛躍を埋める論証となる部分を本文中に求める。その際に、今までの設問で解答した部分を参照すると、素早く解答の根拠を捉えることができる。

まず㈠で「翻訳」とは①「表現と一体となっている内容を伝えること」であると捉えた。だから、㈢で捉えたように②「原文の言葉づかい」を尊重しつつ、「母語の表現」として読めるようにするという「対話」を行う。しかし、㈣で捉えたように「その対話」は不可能なので、③「新たな表現」が生まれる。以上が本文で捉えた「翻訳」である。㈡は「翻訳」ではない「創作」を説明した問題であるから不要。

つぎに「文化を横断する営み」につながる論証を求める。すると、第十一段落一文目二文目に「異文化理解」と「翻訳」の類似点が指摘されているとわかる。④「複数の異なるものを受け止め、よく理解しあって、新たな共通理解（新たな言葉）を作る」のが⑤「異文化理解」と「翻訳」の類似点である。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　過去問実践演習

２０１４年　第四問　蜂飼耳「馬の歯」

要旨

初対面の人と会うとき、未知の世界を切り開く新たな疑問が得られる時がある。それは本を読むのと似ている。また、自然においても同様のことがある。そして、人は疑問を明らかにしようと試みるが、一度明らかになったことも仮説に過ぎず、いずれは否定される。しかし、そのような疑問を持つことによって、人はより世界が広がっていくのである。

解答（20点）

㈠（5点）
話題探しを愉しむか、嫌でないと思いこんで初対面の人と向き合う時間は、日常的理解を揺るがす事柄を知る契機になるということ。

解答ポイント
① 話題探しを愉しむか、嫌でないと思いこんで初対面の人と向き合う時間（3点）
② 日常的理解を揺るがす事柄を知る契機になる（2点）

㈡（5点）
本と同様植物園においても、意図せざるものと向き合うと、未知の世界が広がり、自分には思いもよらない事柄が見つかるということ。

解答ポイント
① 本と同様植物園においても（2点）
② 意図せざるものと向き合うと（1点）
③ 未知の世界が広がり、自分には思いもよらない事柄が見つかる（2点）

㈢（5点）
曖昧な未知のものを明確に理解しようとしても、現在明確になったことは仮説に過ぎず、いずれ否定されるものだということ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

解答ポイント

① 曖昧な未知のものを明確に理解しようとしても（2点）

② 現在明確になったことは仮説に過ぎず（2点）

③ いずれ否定されるものだ（1点）

㈣（5点）

自分の意図を超えた自然と向き合い、日常的理解と未知のものの間で問い続けることで、新たな知を切り開く人もいるということ。

解答ポイント

① 自分の意図を超えた自然と向き合い（2点）

② 日常的理解と未知のものの間で問い続ける（2点）

③ 新たな知を切り開く人もいる（1点）

解説

㈠ 傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を含む一文を分析すると、「いずれにしても」という指示語を含む表現、「日常のなかに、ずぶりと差しこまれる」という比喩表現がそれぞれポイントであることがわかる。よって、これらのポイントを説明する根拠を本文中に求める。

まず、「いずれにしても」であるが、「AまたはB」のどちらでも良いということである。よって「AまたはB」に相当するものを捉える。Aは第一段落三文目「もともとは苦手だったそういう（＝話題を探す）事柄が、いつからか嫌でなくなり、いまでは愉しいひとときにすらなってきた」である。Bは同段落四文目「どのみち避けられないから、嫌ではないはずと自己暗示を掛けているだけかもしれない」である。これをまとめると①「話題探しを愉しむか、嫌でないと思いこむ」となる。

次に「日常のなかに、ずぶりと差しこまれる」という比喩表現であるが、「初対面の人と向かい合う時間」が「日常」のなかに「何を」もたらすのかを求めるとよい。すると、第三段落十二文目に「自分には思いもよらない事柄を、気に掛けて生きている人がいると知る」とある。つまり、②「初対面の人と向かい合う時間」が「日常」のなかに、「自分には思いもよらない事柄」があることを教えてくれるのである。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(二) 傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「風が荒々しい手つきでめくれば」という比喩表現、「新たなページが開かれて、見知らぬ言葉が落ちている」という比喩表現がそれぞれポイントであることがわかる。よって、それらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず、「風が荒々しい手つきでめくれば」であるが、第五段落一文目に「台風の後は、植物園に直行するんです」とある。傍線部の「風」は「台風」であり、「荒々しい手つきでめくる」というのは「本をめくる」ということに喩えているのである。喩えられているものは、同段落九文目「植物園もまた本に似ている」にもあるように「植物園」である。ここに「類似」の構造があることから、①「植物園」と「本」の類比を説明する問題であるとわかる。「台風」と「未知の本」の類似点は何かというと②「意図せざるもの」である。

次に「新たなページが開かれて、見知らぬ言葉が落ちている」という比喩表現である。「植物園」には同段落四文目十文目「こんな大きい松ぼっくり」が「落ちている」のであるが、「本」との類比表現になるように一般化しなければならない。そこで「本」の説明がある第三段落十二文目をみる。「自分には思いもよらない事柄を、気に掛けて生きている人がいると知ることは、知らない本のページをめくる瞬間と似ている」とあることから、③「新たな世界が開かれて、自分には思いもよらない事柄」が発見できるという意味であることがわかる。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

(三) 傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「その一歩」という指示語、「消えていく光」という比喩表現がそれぞれポイントであることがわかる。よって、これらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず「その一歩」であるが、第十段落八文目に①「輪郭の曖昧な物事に輪郭を与えようと一歩踏み出すこと」である。

次に「消えていく光」であるが、「輪郭の曖昧な物事に輪郭を与えようと一歩踏み出すことからは、光がこぼれる」の光である。「消えていく」という部分は同段落七文目に②「足元を照らす明確さは、いつでも仮のもの」であり、同段落六文目にあるように③「多くのことは曖昧なまま消えていく」。「輪郭の曖昧な物事に輪郭を与えようと一歩踏み出すこと」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

によって、「足元を照らす明確さ」が得られたように思うが、それは「いつでも仮のもの」であり、「曖昧なまま消えていく」のである。

　以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

(四)　傍線部内容説明問題

　傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「掌にのせて」の省略された目的語、「文字のないそんな詩を読む人」という比喩表現がそれぞれポイントであるとわかる。よって、それらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

　まず「掌にのせて」の省略された目的語であるが、第十三段落六文目七文目に「松ぼっくり。馬の歯」とある。これは「理系の人」の話に出てきたものである。よって、①「自分には思いもよらない事柄＝自然」に向き合う人だとわかる。

　次に「文字のないそんな詩を読む人」であるが、詩の内容は、第十一段落二文目にあるように「わかることとわからないことのあいだで、途方に暮れるすがたを刻む」ものである。また、「馬の歯」の話の中にも、第十二段落七文目にあるように「その暗がりのなかで、ただひとつ明らかなことは、これはなんだろう、という疑問形がそこにはあるということだ」と②「疑問」があることがわかる。

　さらに、「疑問」について第十三段落一文目に「問いによって、あらゆるものに近づくことができる」と説明がある。また、同段落二文目にも「問いとは弱さかもしれないけれど、同時に、もっとも遠くへ届く光なのだろう」とある。「問い＝疑問」とは苛立つものではあるが、同時に③「最も遠くへ届く光＝未知のものが明確になる」契機であるという意味である。これが「文字のないそんな詩」である。

　以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講　過去問実践演習

２０１４年　第一問　藤山直樹『落語の国の精神分析』

要旨

落語家も精神分析家も、金を払い職能に期待する他者に一人で向き合い成功しないと、職業生命が脅かされるという孤独の中で生きている。

また、落語家も精神分析家も、対象の中の複数の他者と同一化し、かつ対話と交流により相手を理解する一人の自律的な精神を作り生きている。

患者はそのような精神分析家の姿を見て、分裂している自分を重ね合わせ、自分も一人の自律的な存在として生きる可能性を感じる。

解答（40点）

㈠（5点）

落語家も精神分析家も、金を払い職能に期待する他者に一人で向き合い生きて成功しないと、職業生命が脅かされるという孤独。

解答ポイント

①　落語家も精神分析家も（1点）

②　金を払い職能に期待する他者に一人で向き合い（2点）

③　生きて成功しないと、職業生命が脅かされる（2点）

㈡（5点）

落語家は根多に登場するたがいに意図を知らない複数の他者たちにその都度同一化し、ひとり芝居で生きた対話をするということ。

解答ポイント

①　根多に登場するたがいに意図を知らない複数の他者たちにその都度同一化（3点）

②　ひとり芝居で生きた対話をする（2点）

㈢（5点）

自己の中の自律的に作動する複数の自己との対話と交流のなかで、自分が一人の個として自律的な存在であると思い込むこと。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

解答ポイント

① 自己の中の自律的に作動する複数の自己との対話と交流のなかで（3点）

② 自分が一人の個として自律的な存在であると思い込む（2点）

㈣（5点）

精神分析家も落語家も、対象の世界の中にある異なる複数の他者に同一化し、自己の中で対話と交流を行う必要があるということ。

解答ポイント

① 精神分析家も落語家も（1点）

② 対象の世界の中で異なる複数の他者に同一化（2点）

③ 自己の中で対話と交流を行う（2点）

㈤（10点）

落語家と同様に精神分析家も、対象の中の複数の他者と同一化し、対話と交流をしながらも、一人の自律的な存在として生きている。患者は分析家の姿を見て、分裂している自分を重ね合わせ、自分も一人の自律的な存在として生きる可能性を感じるから。

解答ポイント

① 落語家と同様に精神分析家も（2点）

② 対象の中の複数の他者と同一化し　㈡・㈣（2点）

③ 対話と交流により相手を理解する一人の自律的な精神を作り生きている　㈢（2点）

④ 患者は分析家の姿を見て、分裂している自分を重ね合わせ（2点）

⑤ 自分も一人の自律的な存在として生きる可能性を感じる（2点）

㈥ a稼　b慰　c脅　d情緒　e契機（各2点）

解説

㈠ 傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「この」という指示語、「こころを凍らせるような」という比喩表現、「孤独」という筆者特有の用語がそれぞれポイントであることがわかる。よ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

って、それらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず、「この」の指示内容を求めると、第三段落一文目二文目に「多くの観衆の前でたくさんの期待の視線にさらされる落語家の孤独。たったひとりの患者の前でその人生を賭けた期待にさらされる分析家の孤独」とある。よって、この孤独は第一段落一文目にもあるように①「落語家と精神分析家に共通する孤独」であるとわかる。

次に「孤独」であるが、それは第一段落二文目「落語家は金を払って『楽しませてもらおう』とわざわざやってきた客に対して、たった一人で対峙する」と、第二段落一文目「分析家も毎日自分を訪れる患者の期待にひとりで対するしかない」という部分から、②「金を払い職能に期待する他者に一人で向き合う」ことであるとわかる。

最後に「心を凍らせるような」であるが、第三段落四文目から七文目に説明がある。「いずれにせよ、彼らは自分をゆすぶるほど大きなものの前でたったひとりで事態に向き合い、そこを生き残り、なお何らかの成果を生み出すことが要求されている」という文から、Ｐ「落語家、精神分析家」であるためには、Ｑ「自分をゆすぶるほど大きなものの前でたったひとりで事態に向き合い、そこを生き残り、なお何らかの成果を生み出す」ことが必要であるとわかる。そしてその対偶として、「それに失敗することは、自分の人生が微妙に、しかし確実に脅かされることを意味する。客が来なくなる。患者が来なくなる」という部分がある。これは「それに失敗することは」という部分が「Ｑでないならば」＝「成果を生み出すことができないならば」となり、「客が来なくなる。患者が来なくなる」という部分が、「Ｐでない」＝「落語家、精神分析家でなくなる」となる。よって、「心を凍らせる」は③「職業生命が脅かされる」となる。「人生」や「生計」が「脅かされる」としてはならない（失業しても死にはしないし、転職すればお金は手に入るからである）。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

(二)　傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「たがいに他者性を帯びた」という筆者特有の表現、「何人もの他者たち」という筆者特有の表現、「分裂」という筆者特有の表現がそれぞれポイントであることがわかる。よって、以上のポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず「たがいに他者性を帯びた」であるが、第六段落八文

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目の①「おたがいがおたがいの意図を知らない」という部分である。

そして、「何人もの他者たちによって占められ」であるが、第六段落五文目六文目にあるように「ひとり芝居」において①「根多のなかの人物に瞬間瞬間に同一化する」することである。

次に「分裂」であるが、第六段落十一文目にあるように②「他者性の維持による生きた対話」をすることである。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

(三)　傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。まず傍線部を分析すると、「ひとまとまりの『私』」という筆者特有の表現、「ある種の錯覚」という筆者特有の表現がそれぞれポイントであることがわかる。よって、これらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず「ひとまとまりの『私』」であるが、第九段落七文目に①「ひとりのパーソナルな欲望と思考をもつひとりの人間、自律的な存在」とある。

次に「ある種の錯覚」であるが、第七段落四文目に②「自己のなかに自律的に作動する複数の自己」があって、「それらの対話と交流のなかに」存在しているということから、「ひとりのパーソナルな欲望と思考をもつひとりの人間、自律的な存在」というのが、「錯覚」であるとわかる。

ただし、「ある種」とあることから、「錯覚」は間違いのようだけどそのような自覚は確かに存在すると思い込むという意味である。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

(四)　傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「も」という類似のフレームワーク、「分裂」という筆者特有の表現がそれぞれポイントであることがわかる。よって、それらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず「も」であるが、①「精神分析家」と「落語家」の類似点を指摘しなければならない。(二)で捉えた「落語家の分裂」と共通する説明に「一般化」しなければいけないことがわかる。

次に②「分裂」であるが、一度「精神分析家」の「分裂」を捉える。第八段落九文目に②「患者のこころの世界が精神分析状況のなかに具体的に姿を現し、分析家は患者の自己の複数の部分に同時になってしまい、その自己は分裂する」と

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ある。そして、㈡で捉えた「分裂」＝③「他者性の維持による生きた対話」との共通点を考える。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈤　傍線部理由説明問題

傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。ただし、今回は①「落語家との共通性にふれながら」という条件があることから、本文全体を参照して解く必要がある。傍線部を分析すると「生きた人間としての分析家自身のあり方こそが」という部分と、「患者に希望を与えてもいる」という部分に飛躍がある。よって、この飛躍を埋める論証となる部分を本文中に求める。

まず「生きた人間としての分析家自身のあり方」であるが、修飾部に「分裂から一瞬立ち直って自分を別の視点から見ることができる」とある。このことから「分裂」しながらも「一人の人間」として生きる様を説明すれば良い。②「分裂」は㈡・㈣で捉えており、③「一人の人間」として生きるということは㈢で捉えているのでそれを利用する。

ただし、これだけでは不十分である。そのような④「分裂」をしながらも「一人の人間」として生きる「精神分析家」の姿を見て、「分裂」に苦しむ「患者」も、第九段落六文目七文目にあるように⑤「自分はこころのなかの誰かにただ無自覚にふりまわされ、突き動かされなくてもいいのかもしれない。ひとりのパーソナルな欲望と思考をもつひとりの人間、自律的な存在でありうるかもしれない」と思い、「希望」を持つのである。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　過去問実践演習

2015年　第四問

藤原新也「ある風来猫の短い生涯について」

要旨

本来生き物は野生の掟に従い自立して生きなければならない。しかし、野生の掟に従い死ぬ運命にあった猫を、間接的に苦しみを与えたかも知れないという責任感から、人為的に介助して生かしてしまった。しかし、筆者はその病猫と生活するうちに、その病猫の世話をしたのは筆者に元々慈悲心があったからではなく、病猫が筆者の慈悲心を喚起したからではないかと気がつき始める。病猫は自ら不快な臭気を放つほどの病気になるという犠牲を払って筆者の慈悲心を喚起し、筆者は世話をするという契約関係が生み出される。そのような関係により愛という感情は生まれるのである。したがって、愛情が残っている以上、病猫の臭気は、記憶の中に残り続けるのである。

解答（20点）

㈠（5点）

現代の自立できない人間を憂う筆者が、親から離れた子猫が立派に自立する生き物の本来の普遍的な姿に安心感を覚えるということ。

解答ポイント

① 現代の自立できない人間を憂う筆者（2点）
② 親から離れた子猫が立派に自立する生き物の本来の普遍的な姿（3点）

㈡（5点）

野生の掟にしたがい死ぬ宿命にあった猫を、苦しみを与えた責任感から、よくないと知りつつも人為的に生かしてしまったということ。

解答ポイント

① 本来野生の掟にしたがい死ぬ宿命であった猫（2点）
② 苦しみを与えた責任感から（1点）
③ よくないと知りつつも人為的に生かしてしまった（2点）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈢（5点）
病猫の面倒をみることに感心するのは、慈悲心が自分に元々あったからではなく、猫が慈悲心を与えてくれたからだと感じ始めたということ。

解答ポイント
① 病猫の面倒をみることに感心する（2点）
② 慈悲心が自分に元々あったからではなく（1点）
③ 猫が慈悲心を与えてくれたから（2点）

㈣（5点）
猫は不快な臭気を放つほど病むという犠牲を払い、筆者は慈悲心を喚起され世話をするという関係により、愛が生まれていたということ。

解答ポイント
① X＝猫は不快な臭気を放つほど病むという犠牲を払い（2点）
② Y＝筆者は慈悲心を喚起され世話をする（2点）
③ XかつY＝愛（愛にはXが必要）（1点）

解説

㈠ 傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「悠久の安堵感」という心情表現がポイントであることがわかる。よって、このポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず、「悠久の安堵感」に打たれた原因であるが、第四段落一文目に「一体それ（＝自立した猫）が何処に行ったのか、私はしばしば対面する山影を見ながらそのありかを想像してみる」が、原因であることがわかる。ただし、これだけでは不十分である。「猫がいなくなった」から「安心」というのは飛躍がある。よって、この飛躍を埋める条件を求める。

すると、第四段落四文目に「子離れ、親離れのうまくいかない人間」とある。①現代の人間は「子離れ、親離れ」がうまくできないということを憂いている筆者にとって、「見事な親離れ」をする猫は、「安堵感」をもたらすものとなる。また、②「子離れ、親離れ」がうまくできないというのが「現代」の特徴であるとすると、「親離れ」ができるというのは、「昔から」の生き物のあり方を示しているので、「悠久」の安堵感となるのである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈡　傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「死ぬべき猫」という筆者特有の表現、「生かしてしまった」という筆者特有の表現がそれぞれポイントであることがわかる。よってそれらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず、「死ぬべき猫」であるが、第十段落に①「それ（＝あらゆる病気を抱え込んでいる）も宿命であり、野生の掟にしたがってこの猫は短い寿命を与えられている」ということである。

また、「生かしてしまった」であるが、第十段落にあるように「それに手を貸すことはよくないことだと思い」ながらも、第十三段落にあるように②「そのような経緯（＝私が苦しみを与えたような気持ちに陥った）」で、③「私はつい猫を家に入れてしまった」ということである。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈢　傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「それ」という指示語、「そういうこと」という指示語、「ではない」という「否定」のフレームワークがそれぞれポイントであることがわかる。よって、これらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず「それ」であるが、第十四段落七文目の「その感心」を指している。そして「その感心」は同段落六文目の「ときに人がやってきたとき、家の中にあまり芳しくない臭気を漂わせながら、あたりかまわずよだれを垂らし、手からは血膿の判コを押してまわるこの痩せ猫を見てよくこんなものの面倒をみているなぁとだいたい感心する」とある。つまり「それ」は①「病猫の面倒をみることに感心すること」である。

次に「そういうこと」と「ではない」であるが、同段落七文目のA「私のボランティア精神に対する共感の意味」「ではない」ということである。では、「AでなくB」の「B」は何かと考えて、本文を読んでいくと、第十七段落一文目に「私が病気の猫を飼いつづけたのは他人が思うような自分に慈悲心があるから」ではなく、「その猫の存在によって人間であるなら誰の中にも眠っている慈悲の気持ちが引き出されたから」とある。そして、「B」をまとめた文として、同段落二文目の「その猫は自らが病むという犠牲を払って、他者

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

に慈悲の心を与えてくれた」という部分になる。
つまり、②A筆者は慈悲心がある自分に感心しているのではなく、③B慈悲心を与えてくれた猫に感心しているのである。
以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

(四) 傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「その臭い」という指示語、「愛しく思い出される」という筆者特有の表現がそれぞれポイントであることがわかる。よって、それらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。
まず「その臭い」であるが、第十九段落にある①「あの肉の腐りかけたような臭気」である。ところが、これはどう考えてもよさそうには思えない。ここには飛躍がある。
次に「愛しく思い出される」であるが、「愛」が生じる条件を捉えると、第十六段落三文目に「誰が見ても汚く臭いという生き物が、他のどの生き物よりも可愛いと思いはじめるのは、その二者の関係の中にそういった輻輳した契約が結ばれるから」とある。このなかの「そういった輻輳した契約」が指示語と筆者特有の表現であることから、ポイントであることがわかる。
「そういった輻輳した契約」とは、第十七段落一文目二文目にあるように①X「猫は自らが病むという犠牲を払って、他者に慈悲の心を与え」かつ、②Y「人間であるなら誰の中にも眠っている慈悲の気持ちが引き出された」筆者が、「病気の猫を飼いつづけた」という関係のことを言っている。つまり、「愛」が生じるためには、③「XかつY」が必要であることがわかる。すると「愛」が筆者に残っている以上、たとえX「臭気を放つ猫」が死んだとしても、「筆者の愛」はX「臭気を放つ猫」を必要とするので、思い出されるのである。
以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　過去問実践演習

2015年　第一問

池上哲司『傍らにあること―老いと介護の倫理学』

要旨

過去の自分と現在の自分という二つの自分があるというのは誤りであり、あるのは現在の自分だけである。過去の自分は身体的にも意味的にも現在の自分に統合されている。その過去を統合する営みは、他者からの承認を必要とする。しかし、それだけでなく今までの自己像を否定する可能性を考えることによって、自己像は固定化されることなく生成という運動が行われるのである。自分の死後は自分による生成は行われないが、自分の足跡を辿る後世の人が生成を引き出す。自分の死後も生成が引き出される可能性を考慮して、自己を生成するということが起こる。このように後世の人々が抱く自己像を考慮して、既存の自己像を否定する可能性を考えるということが、自己の生成には含まれている。

解答　(40点)

㈠（6点）

過去の自分と現在の自分は異なる二つのものではなく、過去の自分は身体的にも意味的にも現在の自分として統合されているものだから。

解答ポイント

① 過去の自分と現在の自分は異なる二つのものではなく（3点）

② 過去の自分は身体的にも意味的にも現在の自分として統合されているもの（3点）

㈡（6点）

自分の生成は、過去の経験を意味づけ現在の自己像を作り直すことだが、この意味づけは意のままにならぬ他者からの承認を必要とするから。

解答ポイント

① 自分の生成は、過去の経験を意味づけ現在の自己像を作り直すこと（3点）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

② この意味づけは意のままにならぬ他者からの承認を必要とする（３点）

㈢（６点）

他者から認められただけの自分らしさは、既存の自己像を否定する可能性を含むものではなく、その自己像の具現化でしかないということ。

解答ポイント

① 他者から認められただけの自分らしさは、その自己像の具現化でしかない（３点）

② 既存の自己像を否定する可能性を含むものではなく（３点）

㈣（６点）

先人の自己像を具現化した行為にその先人らしさを認めるか否かを判断する新たな生成の可能性が、後世の人には感じられるということ。

解答ポイント

① 新たな生成の可能性が後世の人には感じられる（３点）

② 先人の自己像を具現化した行為にその先人らしさを認めるか否かを判断する（３点）

㈤（10点）

過去の具体的行為を意味付け、現在の自己像を不断に作り直す生成には、他者の承認が必要であるが、その他者には現在の人だけでなく、後世の人も含まれることを想定することにより、現在認められている自己像を自ら否定する可能性が自覚されるということ。

解答ポイント

① 過去の具体的行為を意味付け、現在の自己像を不断に作り直す生成　㈠（３点）

② 他者の承認が必要である　㈡（２点）

③ その他者には現在の人だけでなく、後世の人も含まれることを想定する　㈣（２点）

④ 現在認められている自己像を自ら否定する可能性が自覚される　㈢（３点）

㈥　a獲得　b高潔　c依然（各２点）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

解説

㈠　傍線部理由説明問題

傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。傍線部を分析すると「このような見方は」という部分と、「誤っている」という部分の間に飛躍がある。よって、この飛躍を埋める論証となる部分を本文中に求める。

まず「このような見方」であるが、第一段落二文目三文目にあるように「身体的にも意味的にも、昨日の自分と現在の自分とが微妙に違っている」が、「その違いを認識できるのは、その違いにもかかわらず成立している不変の自分なるものがあるから」という「発想」＝①である。

この「発想」が「出発点」のところで間違っているということを論証するためには、これだけでは不十分である。よって「出発点」＝「身体的にも意味的にも、昨日の自分と現在の自分とが微妙に違っている」の説明をさらに求める。すると第一段落七文目八文目に①「過去の自分と現在の自分という二つの自分がある」のではない。「あるのは、今働いている自分ただ一つである」とある。それを詳しく説明したのが第二段落一文目で、②「過去の自分は、身体として意味として現在の自分のなかに統合されており、その限りで過去の自分は現在の自分と重なる」とある。よって、「昨日の自分」と「現在の自分」という考え方が誤りであることがわかる。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈡　傍線部理由説明問題

傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。傍線部を分析すると、「この運動を意識的に制御できる」という部分と、「考えてはならない」という部分の間に飛躍がある。よって、この飛躍を埋める論証となる部分を本文中に求める。

まず「この運動」であるが、第三段落八文目にある①「他者からの応答によってその姿勢(＝そのような過去への姿勢)が新たに組み直される」、「自分の生成」である。そして、「そのような過去への姿勢」は第三段落七文目「自分の出会ったさまざまな経験を、どのようなものとして引き受け、意味づけているか」である。

これだけでも良さそうだが、「他者からの応答によって」という部分を詳しく説明したものとして、第四段落五文目に②「自分の自分らしさは他人によって認められるという逆説」とあるのでこちらも参考にする。自分の意のままにならない「他人によって認められる」ことなのだから、「この運動を意識的に完全に制御できると考えてはならない」のである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈢　傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「その認められた自分らしさ」という指示語、「生成する自分」という筆者特有の表現、「生成する自分の残した足跡」という比喩表現がそれぞれポイントであることがわかる。よって、それらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず「その認められた自分らしさ」であるが、第五段落七文目にあるようにX「自分について他人が抱いていた漠然としたイメージを、一つの具体的行為として自分が現実化する」ことで他人に認められた「自分らしさ」である。そして①この「現実化された」「具体的行為」のみが、「生成する自分の残した足跡」である。

次に「生成する自分」であるが、「Xのみ」だと「足跡」になってしまう。であれば、別の条件が必要となる。その条件は第七段落五文目六文目にあるように、X「自分なり、他人なりが抱く自分についてのイメージ」がある上で、②Y「それからどれだけ自由になりうるか。どれだけこれまでの自分を否定し、逸脱できるか」。「この『……でない』という虚への志向性」が現在生成する自分の可能性であり、方向性である。つまり、「生成する自分」というのは、「XかつY」である。今回の問題は「生成する自分」ではなく、「生成する自分の残した足跡」を解答しなければならないので、「YでなくXのみ」と解答する。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈣　傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「残された足跡」という比喩表現、「その足の運びの運動性」という比喩表現がそれぞれポイントであることがわかる。よって、これらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず「残された足跡」であるが、第八段落にあるように「生成」は「われわれの死」によって終わり、「後には自分の足跡だけが残される」とあることから、「死後の自分らしさ」であるとわかる。

次に「その足の運びの運動性」であるが、㈢で捉えたように②「運動性」＝「生成」というのは、「他人が抱くその人についてのイメージ」を「否定」することが必要であった。ただし、現在「自分」は死んでいるのだから、「否定」する

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

のは「自分以外の人」つまり「残された足跡を辿る人間」である。それを示しているのが、第十段落四文目五文目にある「自分の足跡は他人によって生を与えられる。われわれの働きは徹頭徹尾他人との関係において成立し、他人によって引き出される」という部分である。つまり「その人らしさのイメージ」を「否定」することで①「新たな可能性をもたらす」＝「生成する」のは「他人」＝「残された足跡を辿る人間」なのである。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈤　傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。ただし、この問題は「本文全体の趣旨を踏まえた上で」とあることから、全体把握問題として考える。傍線部を分析すると「この秘められた、可能性の自分」という指示語と筆者特有の表現、「虚への志向性としての自分の方向性」という筆者特有の表現がそれぞれポイントであることがわかる。よってこれらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず「この秘められた、可能性の自分」であるが、第十段落六文目七文目に「そして、自分が生成することを止めてからも、その働きが可能であるとするならば、その可能性はこの現在生成している自分に含まれているはずである。そのように、自分の可能性はなかば自分に秘められている」とある。「自分が生成することを止めてからも、その働きが可能である」というのは㈣で捉えたポイントである。

また、「その働き」であるが、第十段落五文目「われわれの働きは徹頭徹尾他人との関係において成立し、他人によって引き出される」とある。これは㈡で捉えた「自己像の生成は他者からの承認を必要とする」である。

そして「われわれの働き」とは㈠で捉えた「過去の自分は身体的にも意味的にも現在の自分として統合」＝㈡で捉えた「過去の経験を意味づけ現在の自己像を作り直すこと」である。

以上のポイントをまとめると、①「過去の経験を意味づけ現在の自己像を作り直すこと」（「過去の自分は身体的にも意味的にも現在の自分として統合」）するには、②「他者からの承認を必要とする」。そして、その「他者」には③「後世の人」も含まれる。

次に「虚への志向性としての自分の方向性」であるが、㈢で捉えた「既存の自己像を否定する可能性を含むもの」のことである。つまり、「後世の人も自己像を認めるか否かを判断する」ことを想定して、④「現在の他者や自分が抱いてい

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

る自己像を否定する可能性を自覚する」ということである。
以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。